

**[基本情報]**

タイプA

|   |                                                                                                   |                                                                                          |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|
| 1 | 大学名<br>(○が代表申請大学)                                                                                 | 筑波大学                                                                                     |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 2 | 機関番号                                                                                              | 代表申請大学                                                                                   | 12102                                                                                                                                                                                                |  |  |  |  |
| 3 | 主たる交流先の相手国                                                                                        | 米国                                                                                       |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 4 | 分野<br>(該当する場合のみ選択)                                                                                | <input type="radio"/> STEAM <input type="radio"/> GX <input checked="" type="radio"/> DX |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 5 | 事業者<br>(大学の設置者)                                                                                   | ふりがな    ながた    きょうすけ<br>(氏名) 永田 恭介 (所属・職名) 学長                                            |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 6 | 申請者<br>(大学の学長)                                                                                    | ふりがな    ながた    きょうすけ<br>(氏名) 永田 恭介                                                       |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 7 | 事業責任者                                                                                             | ふりがな    かとう    みつやす<br>(氏名) 加藤 光保 (所属・職名) 副学長・理事(教育担当)                                   |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 8 | 事業名                                                                                               | 【和文】                                                                                     |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
|   |                                                                                                   | インクルーシブなスマートソサエティーを創成する国際スタートアップ人材の育成                                                    |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |
| 9 | 取組学部・研究科等名<br>(必要に応じ[ ]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[ ]書きで全ての部局名を記入。) | 学問分野                                                                                     | <input type="radio"/> 人社会系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input checked="" type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他 |  |  |  |  |
|   |                                                                                                   | 実施対象<br>(学部・大学院)                                                                         | <input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 大学院 <input checked="" type="radio"/> 学部及び大学院                                                                                                          |  |  |  |  |
|   |                                                                                                   | 全学                                                                                       |                                                                                                                                                                                                      |  |  |  |  |

|    | 国名 | 大学名(日本語) | 大学名(英語)               | 部局名 |
|----|----|----------|-----------------------|-----|
| 1  | 米国 | オハイオ州立大学 | Ohio State University | 全学  |
| 2  |    |          |                       |     |
| 3  |    |          |                       |     |
| 4  |    |          |                       |     |
| 5  |    |          |                       |     |
| 6  |    |          |                       |     |
| 7  |    |          |                       |     |
| 8  |    |          |                       |     |
| 9  |    |          |                       |     |
| 10 |    |          |                       |     |

|   | 大学等名 | 取組学部・研究科等名 |   | 大学等名 | 取組学部・研究科等名 |
|---|------|------------|---|------|------------|
| 1 |      |            | 4 |      |            |
| 2 |      |            | 5 |      |            |
| 3 |      |            | 6 |      |            |

12. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

筑波大学

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-education/>

13. 本事業経費

(単位: 千円) ※千円未満は切り捨て

| 年度             |        | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 合 計     |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 事業規模<br>(総事業費) |        | 34,000 | 34,800 | 35,600 | 25,787 | 18,640 | 148,827 |
| 内<br>訳         | 補助金申請額 | 34,000 | 34,000 | 34,000 | 22,567 | 11,300 | 135,867 |
|                | 大学負担額  |        | 800    | 1,600  | 3,220  | 7,340  | 12,960  |

14. 本事業事務総括者部課の連絡先

| 部課名 |              |  | 所在地           |  |  |
|-----|--------------|--|---------------|--|--|
| 責任者 | ふりがな<br>(氏名) |  | (所属・職名)       |  |  |
| 担当者 | ふりがな<br>(氏名) |  | (所属・職名)       |  |  |
|     | 電話番号         |  | 緊急連絡<br>先     |  |  |
|     | e-mail(主)    |  | e-mail<br>(副) |  |  |

(大学名: 筑波大学) タイプA

## 質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容

### ① 交流プログラムの目的・概要等【1 ページ以内】

#### 【交流プログラムの目的及び概要等】

#### ■プログラム名「インクルーシブなスマートソサエティを創成する国際スタートアップ人材の育成」

内閣府が提唱する Society5.0 において目標としている「超スマート社会」とは、「インクルーシブ」な社会、すなわち年齢、性別、地域、言語といった様々な属性に捉われることなく、全ての人が平等に、活き活きと快適に暮らすことのできる社会である。この「インクルージョン」の概念は、多元文化国家である米国をはじめとして、世界各国で重要視されてきている。このような社会を実現するために、行政等からのトップダウン的な施策だけでなく、様々な社会問題の解決を目標として、経済的価値と社会的価値を両立することを目指す「ソーシャルスタートアップ」が果たす役割についても注目されている。そこで本プログラムでは、「インクルーシブなスマートソサエティ (ISS)」をキーワードとして、筑波大学 (UT)・オハイオ州立大学 (OSU) の学生があらゆる分野から参画し、協業して社会を変える革新アイデアを提案し、つくば市・コロンバス市・民間企業を巻き込んで社会実装するまでをサポートし、ボトムアップによる地球規模課題解決と同時に、多様な人々が共生できる社会の構築のために主導的な役割を担う人材、国際ソーシャルスタートアップ人材を育成することを目的とする。

本プログラムは、以下のような要素より構成される。

#### 【1】ISS オンライン共同基盤講義 (全学共通科目)

多様な分野から多くの学生が参加し、ISS の基礎知識を学ぶとともに、UT および OSU の学生が交流できる授業を開講する。授業は JV-Campus を活用したオンライン講義をベースとし、ISS に関わる様々なトピックを UT と OSU の教員が解説する。それらの情報をもとに、学生は自分が着目する社会問題の解決策について、オンラインポスターにて発表を行う。また、各ポスターに設置されたコメントツールにより、UT と OSU の学生が時差を超えて意見交換を行う。

#### 【2】ISS サポートプログラム

ISS に関わる既存の講義群及びイベントを提供し、学生の主体的学びを促す。

#### 【3】ISS サマーフェスティバル

オンサイト／オンライン併用で「インクルージョン」をテーマとした体育芸術祭を夏季休業中に開催する。音楽／ポップカルチャー／ダンスコンペティション、esports／para esports 対戦等を通じて、UT と OSU の学生が交流するほか、附属学校／つくば市の障がいのある児童・生徒がバーチャルでつながる催しを行い、「インクルージョン」に関する理解を深めつつ、発信を行う場を設ける。参加学生には「インクルージョン」を学んだことに対する修了証を発行する。

#### 【4】国際新事業提案型 ISS-PBL 授業と選抜チームのオンサイト交流

【1】～【3】のプログラムで刺激を受けた意欲のある学生が参加し、UT と OSU の学生でグループワークを行い、ソーシャルスタートアップ提案を作り上げる。年度末成果発表会においては、つくば市・コロンバス市や関連民間企業等からの助言を受け、提案をブラッシュアップする。コンペで優秀チームを選抜し、互いの大学に派遣して対面の交流を行う。

#### 【養成する人材像】

様々な社会問題を解決する革新アイデアを提案し、それを社会に実装できる国際ソーシャルスタートアップ人材。OSU の学生との国際的チームを組織・運営できるコミュニケーション能力を持ち、事業を世界展開できるリーダーシップ能力を持った国際的人材を養成する。

#### 【本プログラムの具体的なアウトカムの目標】

大学は、優秀な提案プロジェクトを社会実装するためのサポートを行う。実績を積み上げ、参加外部組織からの投資資金等による自走フェーズを実現する。

#### 【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない）

| 2023 年度 |     | 2024 年度 |     | 2025 年度 |     | 2026 年度 |     | 2027 年度 |     |
|---------|-----|---------|-----|---------|-----|---------|-----|---------|-----|
| 派遣      | 受入  | 派遣      | 受入  | 派遣      | 受入  | 派遣      | 受入  | 派遣      | 受入  |
| 110     | 100 | 720     | 360 | 825     | 415 | 925     | 465 | 925     | 465 |

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

## ② 事業の概念図【1 ページ以内】

## インクルーシブなスマートソサエティを創成する国際スタートアップ人材の育成



「インクルーシブ」な「スマートソサエティ」をキーワードとして、  
筑波大学・オハイオ州立大学の学生があらゆる分野から参画し、  
協業して**社会を変える革新アイデア**を提案  
つくば市・コロンバス市・民間企業を巻き込んで社会実装  
ボトムアップの地球規模課題解決のための国際スタートアップ人材育成



✓ **養成する人材像**：社会を変える革新アイデアを提案し、実現できる**国際ソーシャルスタートアップ人材**  
OSU学生との協業を通して**国際的視野**を身につけ、事業を**世界展開**できる力を持った人材

✓ **インクルーシブなスマートソサエティ（ISS）とは？**：  
革新的なテクノロジーをもとに、**多様な背景を持った人々が等しく主役となる社会**

✓ **本プログラムの仕組み**

- ISSオンライン共同基盤講義(全学共通科目：多様な分野から幅広い学生が参加)
- ISSサマーフェスティバル(インクルージョンをテーマとしたオンライン体育芸術テクノロジー祭)
- 国際新事業提案型ISS-PBL授業(意欲のある学生がグループワークで研鑽)
- 年度末**成果発表会**：行政・民間企業からの助言によるブラッシュアップ
- UT-OSUオンライン交流(成果発表会での優秀チームをOSUに派遣)
- 国際ソーシャルスタートアップ**：外部資金を獲得し、提案を社会実装
- 起業実績を積み上げ、参加外部組織からの投資資金による**自走フェーズ**を実現



✓ **パートナー大学：OSU(オハイオ州立大学)**

- OSU × コロンバス市で  
スマートシティプロジェクト実施実績  
筑波大学(UT) × つくば市のスマートシティ構想と相補的
- UT-OSU幅広い分野での協力関係実績  
(体育、障害科学、ポップカルチャー、防災など)
- 米国は「ソーシャルスタートアップ」また  
「インクルーシブ」の考え方の先進国

✓ **筑波大学の強みを活かしたプログラム**

- 研究学園都市の総合知
- 体育・芸術・人文・理学・医学・工学の融合  
→スマートソサエティ
- 日本人学生と外国人留学生が協業できるプログラム  
→国際化推進
- TGSW, 筑波会議, Sport Complex for Tomorrowなどの  
取組との相乗効果

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

**③ 国内大学等の連携図【1 ページ以内】**

筑波大学は、人文学、教育学、社会科学、理学、工学、農学、医学等に加え、体育学、芸術学、図書館情報学等の他大学にはない分野を有する国内有数の総合大学であり、世界が直面する課題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指した幅広い教育研究活動を展開している。

本プログラムは、本学ならではの学問分野の枠を超えた学内連携を軸としていること、またこれまでに培ってきた国際交流の実績、教学マネジメント体制を以って遂行するものであることから、本学が単独で申請することとした。本事業の遂行により得られる成果は、積極的に学外に発信し、展開していく。

## ④-1 交流プログラムの内容【3 ページ以内】

## 【実績・準備状況】

## ○インクルーシブなスマートソサエティーを創成する国際スタートアップ人材育成の意義

最新のテクノロジーを実装して快適な社会を創成する、というスマートソサエティーの概念は、当初のマジョリティー向けのサービスから、様々な背景を持った全ての人に向けたオーダーメイドなサービスへと進化してきている。そのようなきめ細かいサービスを行政がトップダウンで提供することには限界があることから、ソーシャルスタートアップのような、ボトムアップのサービス提供主体の役割が注目されている。これは、一種のパラダイムシフトであり、社会の中で人が単に自分の利益を追求するだけではなく、自分の社会的役割を理解し、周りの人と協働して社会を良くしていく行動を起こすことで、自分自身と社会を同時に豊かにすることができる、という共通認識を持つことが重要となる。本プログラムでは、多くの学生が参加し、そのような認識を共有できるような教育プログラムを計画している。

## ○筑波大学におけるダイバーシティ教育の実績

筑波大学には、社会科学・芸術・体育・医学・理学・農学・工学といった、あらゆる分野を専門として学ぶ学生がおり、同時に、それらの分野を俯瞰する総合智について学ぶ教養教育の仕組みが整っている。また、「開かれた大学」という建学の理念のもと、ヒューマンエンパワーメント推進局を中心として、Diversity、Equity & Inclusion を推進し、かつ英語学位プログラムの創設、Campus in Campus (CiC) 構想などを通じて、更なる国際化にも取り組んでいる。その中で、日本に比べて格段に多様性の有する米国の大学とは、インクルージョンに関する様々な協業を行ってきた実績を有する。本プログラムでは、そのような教育プラットフォームを基礎として、これからのスマートソサエティーの在り方を学ぶ、新たな教育の仕組みを導入することを目指す。

## ○筑波大学におけるスタートアップ人材育成の実績

筑波大学では、国際産学連携本部を中心として、下記に挙げるように活発なアントレプレナー人材育成を行ってきた。

- ・次世代起業家養成講座
- ・起業家のための経営知財必須知識
- ・筑波クリエイティブ・キャンプ 等

本プログラムでは、そのような支援体制のもと、あらたに「ソーシャルスタートアップ」を志向し、国際的に活躍できる人材を育成することを目指す。

## ○海外パートナー大学との交流実績と準備状況

本学は、2023 年 5 月現在、67 か国・地域の大学や研究機関と 377 協定を締結し、活発な学生交流・教職員交流を行っている。特にオハイオ州立大学 (OSU) とは、1996 年に初めて国際交流協定を締結して以来 4 度の協定更新を重ね、2018 年にはスーパースターグローバル大学創成支援事業に採択された Campus in Campus (CiC) 構想において CiC 協定を締結した。また COIL コースの設置や 2010 年から続く Tsukuba Summer Institute の実施における全学的な学生交流・教員交流、Workshop の共同開催による研究交流、定期的な CiC パートナー校職員による意見交換会の実施等を行っている。

2022 年 11 月に本学学長、国際担当副学長をはじめとするチームで OSU を訪問し意見交換を実施し、双方が積極的に協力し、本プログラムに取り組む方針が確認された。さらに、2023 年 3 月にも本学国際担当副学長が訪問し取組方針を再確認し、4 月に OSU の Vice Provost が来日した際にも打合せを行った。公募要領の公表後、本学と OSU の教職員で、本プログラムの概要の確認、具体的な協力方策について数回に渡りオンラインで打合せを実施し、交流プログラムの内容のブラッシュアップおよび実施体制の構築を図ってきた。

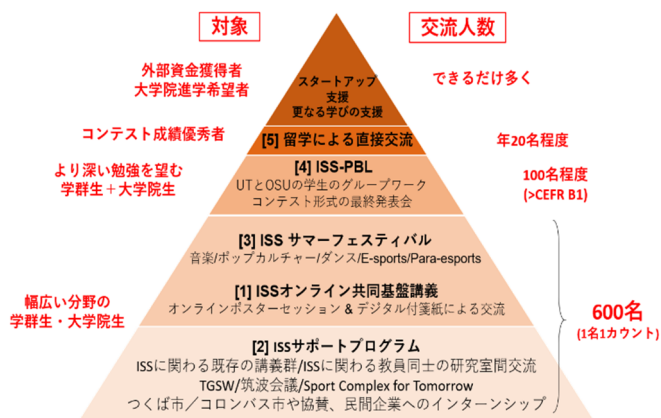
## 【計画内容】

本プログラムでは、上述のインクルーシブなスマートソサエティー (ISS) の概念およびボトムアップの社会変革の概念の共有を目指し、あらゆる分野の学生が参加できるプログラムを構築する。加えて、それらのプログラムへの参加をきっかけに、さらに深く ISS を学び、実際に社会実装にまで繋げるためのプログラムを構築する。以下に、それぞれの構成要素について詳しく説明する。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

### [1] UT-OSU ISS オンライン共同基盤講義 (以降、「ISS 基盤講義」と略す)

本講義は、多様な分野から多くの学生が参加し、ISS についての基礎知識を学ぶとともに、筑波大学(UT)および OSU の学生が交流でき、ISS について意見交換できるような基盤講義として開講する。授業は、COIL/VE 方式による UT/OSU 共通講義として設定し、UT においては「全学共通科目」として、OSU においては General Education 科目として分類し、多くの学生が履修可能なものとする。基礎知識の講義については、日本と米国の時差を考慮してオンデマンド型とし、JV-Campus を活用して、コンテンツの共通化を図るものとする。講義内容については、以下に示すような、ISS に関わる広範なトピックを UT と OSU の教員が共同で解説する計画である。



### <インクルーシブ・スマートソサエティー概論 I>

“Technologies for Achieving Diversity and a Multifaceted Smart Society”

- (1) 障害科学研究(Disability Sciences)
- (2) ロボティクス&ハプティクス(Robotics and Haptics)
- (3) スマート農業(Smart Agriculture)
- (4) スマート材料(Smart Materials)
- (5) 宇宙開発工学(Space Engineering)
- (6) スマートレジリエンス(Smart Resilience)

### <インクルーシブ・スマートソサエティー概論 II>

“Smart Society-Enabled Activities to Enrich Your Social Life”

- (1) ポップカルチャー(Popular Culture)
- (2) 比較宗教(Comparative Religion)
- (3) 体育×障害科学(Physical Education×Disability Sciences)
- (4) 平和研究(Peace Studies)
- (5) e スポーツ/パラ e スポーツ(esports/para esports)

これらの情報を元に、学生は自分が着目する社会問題の解決策について、講義の最終回にオンラインポスターセッションにて発表を行う。また、各ポスターに設置されたバーチャル付箋紙により、UT と OSU の学生が時差を超えて意見交換を行う。

### [2] ISS サポートプログラム

ISS サポートプログラムは、事業全体を下支えするものである。本学には、人文科学、人間科学、自然科学、さらに芸術学や体育学と多様な学問が結集しており、その中にはすでに ISS と親和性の高い講義群も存在する。それらを学生に紹介することにより主体的な学びを促す。なお、ここには学士科目のほか大学院科目も含まれ、高度専門人材及び国際的リーダー育成に繋がる学びも提供される。

また、本学にはすでに OSU と信頼関係を築いている教員も在籍しており、研究室レベルで ISS をテーマにした交流を行い、学生が[1][3][4]…へ挑戦するよう促す。

さらに、本学で実施している Tsukuba Global Science Week(TGSW)や筑波会議、また計画中の Sport Complex for Tomorrow におけるプログラムを ISS サポートプログラムと位置づけ、UT と OSU の学生が共同運営するセッションの開催などをサポートする。

### [3] ISS オンライン/オンサイト サマーフェスティバル

(以降、「ISS サマーフェスティバル」と略す)

本イベントは、インクルーシブなスマートソサエティーの将来像を探る、学生主体のイベントとして計画している。筑波大と OSU の学生が多数交流することを目指し、以下に示すようなバーチャル空間での様々なエキジビションを実施する。

- ・バーチャル展覧会（音楽、絵画、映像ほか）
- ・バーチャルスポーツ大会（各種スポーツのオンライン展示）
- ・esports/para esports 大会

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

具体的には、UT および OSU の学生クリエイターが、バーチャルプラットフォームに作品をアップロードし、鑑賞学生がバーチャル付箋紙を通して情報交流を行い、更に作品評価についてのオープンフォーラム等のオンラインイベントを開催することを想定している。

また、筑波大学の附属学校やつくば市の障がいのある児童・生徒がバーチャルでつながる催しを行い、「インクルージョン」に関する理解を深めつつ、発信を行う場を設けることも計画している。

イベント運営についても、学生組織が主体となって実施し、大学はその体制づくりのサポートを行うことを計画している。また、参加学生には修了証を発行する。

#### **[4] UT-OSU ISS-PBL 講義（以降、「ISS-PBL」と略す）**

本講義は、上記[1][2]において、ISS について興味を持った UT および OSU の学生が、グループワークを通して更に深く ISS について学ぶとともに、ISS を実現するための具体的なアイデアを出し合い、議論を重ねることで提案をブラッシュアップし、最終的に社会実装のための事業化提案までを行う、プロジェクトベース学習 (PBL) 型の講義である。特に、現在スマートシティプロジェクトを実施しているつくば市、米国におけるスマートシティのフロントランナーであるコロンバス市と協力し、ISS に向けた具体的な議論を行うことが本講義の特徴である。

具体的には、以下のように、いくつかの導入講義と学生グループワークを交互に実施し、段階を踏みながら最終回の成果発表会に至る構成を計画している。

1. 導入講義 1: “Introduction to Inclusive Smart Society”
2. ブレーンストーミングのためのポスター発表と付箋紙情報交換
3. 導入講義 2: “コロンバス市における取組例”
4. 導入講義 3: “つくば市における取組例”
5. 個々人の提案についてのポスター発表と付箋紙情報交換
6. 同じ方向性を持った学生でのグループ形成
7. グループディスカッションによる提案内容のブラッシュアップ
8. 導入講義 4: “事業化のための基礎事項”
9. グループディスカッションによる事業化提案
10. 成果発表会と提案コンペ

成果発表会は、提案コンペでもあり、つくば市およびコロンバス市のスマートシティ実施担当者のほか、本プロジェクトの協力企業の担当者にも審査員として参画いただき、学生提案を評価する。そして、コンペの優秀提案グループには、本プロジェクトによる、UT-OSU の短期留学の直接交流費用を支援する。また、Tsukuba Global Science Week (TGSW) や筑波会議などでの発表機会を与える。

#### **[5] ISS 派遣プログラム（実渡航による直接学生交流）**

本イベントは、[4]での優秀提案グループの学生が参加でき、受入大学によって企画される様々な活動に参加し、また[4]で提案した事業化計画をブラッシュアップして発表するなどの交流を行う。交流日程は余裕を持たせ、参加学生が主体的に交流内容を決めることも計画している。

#### **[6] スタートアップ支援と更なる学びの深化への支援**

筑波大学および OSU は、国際産学連携本部などが主体となり、[4]での優秀提案グループが国際的なビジネスコンクールやクラウドファンディングに応募することを支援するなど、社会実装のための外部資金獲得のサポートを積極的に行う。

一方、本プロジェクトでの活動を通じて、より深い学びを求めて大学院に進学する学生に対しては、[2]の大学院講義や[1][4]での TA、関連研究活動などにより、ISS 高度専門人材、国際的リーダー人材、あるいは研究者への道をサポートする。

#### **[7] プロジェクト期間終了後の自走化および更なる発展**

5 年のプログラム実施期間中に上記実績を積み上げつつ、協力企業と win-win の関係を築くことで、プログラム終了後に外部資金により自走できる体制を構築することを目指す。

また、本プログラムによって構築した UT と OSU の組織連携を深化させ、より幅広い教育・研究連携につなげる。更に、本プログラムの成果を、本学と他の海外協力大学や国内の他大学と共有し、本学の第 4 期中期目標にある「トランスボーダー教育モデル」の確立につなげ、世界に対するソーシャルインパクトを生み出す。

## ④-2 学生主体の国際交流プログラム【1 ページ以内】

## 【実績・準備状況】

## ○Tsukuba Global Science Week (TGSW)／筑波会議での学生による企画・運営

毎年9月頃に数日間に渡り、隔年でTGSWまたは筑波会議を開催している。若手中心という考え方はいずれも同じであるが、TGSWが研究の側から社会への還元を大きな視点とするのに対して、「筑波会議」は科学と社会というメインテーマを掲げて、社会の側から研究を見つめるといった特徴がある。主として大学院生による学生企画セッションや学生による発表を行うことが可能である。共同オーガナイザーとして本学教員によるサポートのもと、学生は自らテーマを考え、セッションを運営する。国内外から多くの若手研究者等が集うこれらのイベントにおいて、本プログラムに参加するオハイオ州立大学の学生と本学の学生が協働して成果発表を行うことも可能である。

## ○「はばたけ！筑大生」における海外武者修行支援プログラム

本学では、学生の積極性と企画力・実行力の向上及び自立性の向上を図るため、任意構成の学生グループが自らの企画により海外での交流・研修活動等、武者修行などの目的のために海外展開を希望する場合に、学内競争的資金として学生の取組を支援するプログラムを実施している。学生自身の企画力・実行力が求められるほか、グループをマネジメントするための能力を身に付けることも可能である。本プログラムでは実渡航を伴うプログラムの参加者に一部渡航支援を計画するものであるが、学生がこのような学内競争的資金を積極的に活用し、海外相手大学の学生と交流する機会を自ら企画することも期待される。

## 【計画内容】

## ○ISS サマーフェスティバル

本プログラムで計画しているISSサマーフェスティバルは、学生主体のイベントとして、本プログラムで重要な役割を果たす。インクルーシブなスマートソサエティー(ISS)においては、最新のテクノロジーや社会科学のみならず、体育や芸術などがコミュニケーションの重要なツールとなる。筑波大学は、国立大学としては唯一、体育と芸術の専門学群を持つ大学であり、学生による様々な活動が活発に行われている。ISSサマーフェスティバルは、これらの学生の活動成果発表の場として機能するとともに、学生が自分の専門と社会の関わりを学ぶ場ともなる。音楽・絵画・映像等の芸術分野では、オンラインによるバーチャル展示との親和性が高い一方、スポーツやダンスについては、映像化の工夫の他、バーチャルコミュニケーションについての最新技術などを学ぶ学生との協業により、新しい表現形態が創造される可能性もある。さらに、esports/para esportsに関しては、現在オハイオ州立大学の学生グループが活発に活動を行っていることから、筑波大学でも新たに希望者を募り、対戦型のイベント等を行うことで、観戦者も含めて、より多くの学生の参加を促すとともに、その背後にある「インクルージョン」「スマートソサエティー」といった概念について考えるきっかけとなるようなイベントを学生主体で企画する。

イベントの運営についても、学生が主体となって行う。これは、上記の作品展示を行う学生とともに、筑波大学での英語学士課程学位プログラム(社会国際学教育プログラム、地球規模課題学位プログラム、総合理工学位プログラム等)の留学生ら、およびオハイオ州立大学の学生が協力して企画から運営まで行うことで、国際的なコミュニケーション能力やチーム運営能力を養う機会となる。

## ○ISS 基盤講義／ISS-PBL

ISS 基盤講義やISS-PBLについても、学生が主体的に情報交換を行い、グループを組み、革新的なソーシャルスタートアップ提案を練り上げる過程では、学生の主体性を最大限に引き出すことを意図して講義計画を組み立てている。さらに、短期留学による直接学生交流では、すでにオンラインでコミュニケーションを取っている学生間で、主体的に交流計画を立てさせることで、学生の主体性・行動力を引き出す仕組みとなっている。

さらに、優秀提案グループのスタートアップ支援では、大学はあくまでサポート役であり、学生が主体的に国際的なビジネスコンクールへの応募やクラウドファンディング等を行い、提案事業の実現に向けて行動する。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## ④-3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム 【1 ページ以内】

## 【実績・準備状況】

オハイオ州立大学と筑波大学の共同で開講する COIL 型授業を 2020 年度より実施している。それぞれの大学の学生が参加し、小グループで課題をこなして発表するプロジェクトベース型の授業である。時差の関係から、授業時間外のグループ討論(ビデオ会議およびチャット)をオハイオ州立大学の学生と行うことを前提とし、学生同士で時間の調整も行っている。

また、2021 年度の本事業で採択されたプログラムにおいて、中国・韓国の海外相手大学の教員も参画するオンデマンド型授業を実施し、本学を含むプログラムに参加する海外相手大学の学生は必修としているほか、当該プログラム参加者以外の本学学生も受講している。

2022 年度よりパイロット事業を開始している JV-Campus では、留学生向けの日本語学習コース「日本語マグネット」を開講しており、修了者には受講証明を発行している。

## 【計画内容】

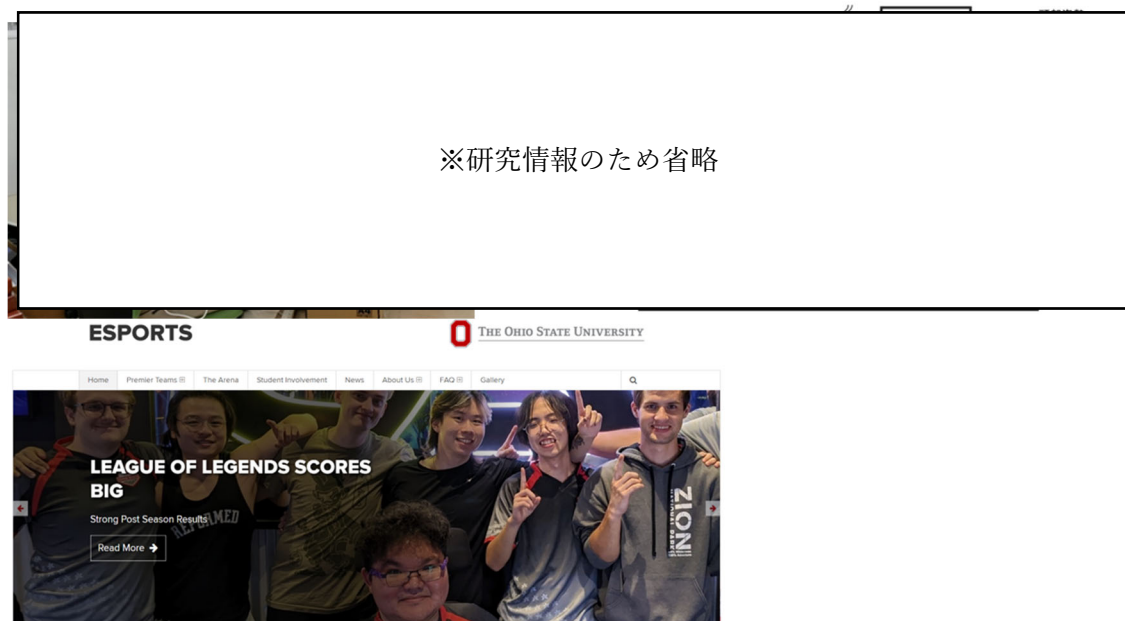
本プログラムでは、時差の関係上、同時双方向型の授業を実施する際は、両国の学生および教員に十分配慮する必要がある。ISS 概論 I/II において、オハイオ州立大学の学生も参加する講義型授業を実施する予定であるほか、PBL においても両国の学生が協働してプロジェクトに取り組む。本学における COIL や海外相手大学とのオンデマンド型授業等の実践を参考に、同期型・非同期型を組み合わせるプログラムを設計することとしている。

ISS 基盤講義および ISS-PBL における教員の講義は、オハイオ州立大学 (OSU) との時差を考え、JV-Campus プラットフォームを活用した、オンデマンド型とする。一方、グループワーク等での比較的少人数の学生同士の意見交換は、これまで実施してきた COIL 型授業のように、既存のビデオ会議およびチャットツールを活用する。これに加えて、ISS オンライン/オンサイト サマーフェスティバルなどのように、多数の学生が、あるテーマに対して意見交換する仕組みとしては、外部のバーチャル学会プラットフォームを利用し、バーチャル作品展示と同時にバーチャル付箋紙のようなコミュニケーションツールを利用することを計画している。そこでは、学生の作品やポスターを手軽に俯瞰しながら、それらに対する鑑賞者の意見も参照でき、多くの参加学生が活発に意見交換をし合うことが可能となる。

また、ISS オンライン/オンサイト サマーフェスティバルにおけるバーチャルスポーツ大会では、現在大学内で研究開発中の、競技者の身体の動きや観戦者の心の動きを伝えられるような先端的なオンラインツールを導入し、実証実験を行うことも計画している(下図参照)。

このような取組みの成果は、JV-Campus で発信することを考え、現在 OSU と協議中である。最初は 2 校間のみでコンテンツを共有できるようにし、3 年目以降、可能なものから公開して、情報の共有化を図ることを計画している。

※研究情報のため省略



(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## ⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4 ページ以内】

## 【実績・準備状況】

## ○海外相手大学の国際交流協定の締結状況

本プログラムの海外相手大学であるオハイオ州立大学とは、2018 年にキャンパス・イン・キャンパス (CiC) 協定を締結し、緊密な交流を続けている。様式 7 の海外相手大学での概要でも示すとおり、オハイオ州立大学は米国における高等教育の質保証体制のもと、ア krediteーション機関により認定を受けている。

## ○教育の質保証と全学的な教育改善サイクルの構築

## 1) 単位の実質化への取組

学士課程では学群学則に基づき、各学群及び総合選抜により入学した学生が 1 年次に所属する総合学域群の各部局細則において、履修科目の登録の上限を原則として年間 45 単位に制限している。大学院では、専門職大学院設置基準により上限を定める必要のある専門職学位課程の 2 専攻以外は、学則上で制限を設けていないが、各教育組織及び指導教員から学生に履修指導を実施している。

## 2) シラバスの運用

「シラバス作成のためのガイドライン」に基づき、入力すべき項目を全学で統一するシステムを導入しており、学修成果に係る評価基準の客観性・厳格性を確保するため、学生にその基準をあらかじめ明示している。全ての開講科目について確実にシラバスが作成されるよう、教学マネジメント室において、毎年全学レベルでシラバスチェックを実施している。さらに、外国語で実施する科目だけでなく、全科目のシラバス英語化を進めており、交換留学生（特別聴講学生）が渡日前に履修を予定する科目の詳細を把握できる体制を整えている。

## 3) 筑波スタンダードの整備

学位を国際的互換性のある能力の証明と位置づけ、学位に相応しいプログラムにするために組織の枠を超えて教員が集まり、学生視点での教育内容を提供するのが学位プログラムである。学位プログラムを中心とした教育システムとすることにより、学生にとっても社会にとっても、大学の教育目的、教育内容、教育成果が見えやすくなる。本学では、建学の理念を踏まえ、教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善方策を含む教育の枠組を明らかにし、学位の質保証と持続的向上を目指す本学の教育宣言「筑波スタンダード」として、基幹サイトにおいて広く社会に公表している。学群・大学院のすべての教育組織について、学位ごとの「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」、およびその質を保証する方策を明示している。

## 4) 評価サイクルにおける検証と全学 FD

教学マネジメント室を中心に、学位プログラムのモニタリング（毎年の自己点検）とプログラムレビュー（数年おきに実施する総合的な点検・評価）において、教育活動に係る取組を検証している。「人材養成目的及び 3 ポリシーの策定・検証」「シラバスの作成・改善」「成績評価」「学修成果の把握・可視化」などの 12 項目について、独自に設定した 5 段階のルーブリックで評価・検証し、フォローアップを行う、全学での教育改善サイクルが構築されている。評価・検証において抽出されたグッド・プラクティスで全学への波及効果が高いと想定される内容や、特に注意すべき課題等について、全学 FD を企画・実施するなど、学内での浸透に努めている。

## 5) 各種ステークホルダー調査の実施

科目毎の授業評価アンケートに加え、毎年実施する入学生アンケート、卒業生・修了生アンケート、企業アンケート、卒業後・修了後アンケートなど、各種のステークホルダー調査を実施している。これらにより収集されたデータは、教学マネジメント室教学 IR 部門の教員を中心に分析を行い、モニタリング、プログラムレビューのほか、様々な教育改善活動のために活用されている。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

## ○国際化に向けた取組

## 1) 学年暦の相違に対する対応

本学では、特色をいかしつつ他大学を先導する学期制として、2 学期 6 モジュール制を導入している。春学期・秋学期をそれぞれ 3 モジュール（1 モジュールは 5 週）に分け年間 6 モジュールとして運用し、海外の協定校とも相互交流や、大学院生や教員が学会に参加しやすい環境を整えている。2 学期 6 モジュール制は、秋入学のプログラムや学期途中から短期研修等で訪れる海外からの学生にも柔軟に対応することが可能となっている。

## 2) 支援体制の強化

学生支援、学生相談とともに、国際交流に関するワンストップサービスを提供するため、2021 年 4 月にスチューデントサポートセンターを設置した。同センターには国際交流支援室を置き、日本人学生、外国人学生を区別することなく、一体的な支援を実施している。また、各教育組織での国際交流活動支援業務を担う要員を、教育組織を支援する事務組織（支援室）毎に配置し、学生の派遣・受入について、現場レベルでの細やかな対応を実施している。

## 【計画内容】

本プログラムで新設する授業科目および既設の授業科目は、全て上記の方針に従って、透明性、客観性の高い、厳格な成績管理を行うこととしている。

筑波大学とオハイオ州立大学が共同で開設する ISS 基盤講義に関して、筑波大学では、全学共通科目の総合科目として設定し、オハイオ州立大学では General Education 科目として設定する計画となっており、多くの学生が取得できる環境を整えている。

また、ISS-PBL は、これまで実施した COIL 科目と同等の、学生のオンライングループワーク協働学習科目として設計している。

上記の科目を共同開講する際、上述のように学年暦の相違に対する対応が必要となる。現在、OSU 側と協議中であるが、筑波大と OSU の両方の学年暦に合致する開講時期として

(1) 10 月 16 日～12 月 6 日（7 週） ISS 基盤講義

(2) 1 月 8 日～2 月 23 日（7 週） ISS-PBL

を計画している。また、ISS サマーフェスティバルは、両者の夏休み期間に実施する計画である。

過去の COIL 科目においては、授業料の相互不徴収が実現しているが、本プログラムの共同開講科目については、現在交渉中である。

ISS 派遣プログラム（実渡航による交流）は、ISS-PBL に参加し、オンラインで協業した学生によるもののため、濃密な学生交流が期待され、高いアクティブラーニング教育効果が見込まれる。これまでに体育や障害科学の分野でオハイオ州立大学との実渡航交流の実績があり、その教育効果は確認済みである。なお、本プログラムでは修了者に修了証等を発行する仕組みを計画中である。

本プログラムの肝となるアントレプレナーシップ教育においては、他の科目のコンピテンスに加えて、新しい枠組みが必要になると考えられる。現在、フィンランドを始めとする EU 諸国では EntreComp と呼ばれる、アントレプレナーシップ教育に関する標準的なコンピテンスを構築して、運用を始めている。そこでは、機会の発見、創造性、ビジョン、アイディアの評価など 15 のコンピテンシーと、それぞれの中に更に 8 段階のレベル分けが設定されており、アントレプレナー教育に特化した達成度評価基準となっている。本プログラムでは、この EntreComp を採用し、ゆくゆくは我が国や米国も含めた標準化を目指すものとする。

ISS サポートプログラムの一つとして検討している国際インターンシップについては、必要とされるビザの種類に関して、現在入国管理局と交渉中である。インターンシップ受入れ先としては、つくば市やコロンバス市等の自治体に加え、本プログラムの協力企業に打診中である。

上記のプログラムに対応する教員は、実際に OSU に長期滞在経験のある筑波大教員、筑波大に滞在経験のある OSU 教員複数名も含め、十分な英語による教育経験のある教員であり、教育の質は保証されている。また、様式 6 に記載されているようなプログラム評価体制を構築し、適切なファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施する。

## 達成目標【①～④合わせて 7 ページ以内】

## ① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

## (i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）

本事業計画全体の達成目標として最も重要なものは、本プログラムに参加した学生がインクルーシブなスマートソサエティーに対して深く理解をし、社会的・文化的・経済的状況の異なる日本と米国の学生が協業する経験を通じて、グローバルリーダーとしての資質を有するソーシャルスタートアップ人材を育成することである。そのような国際連携プログラムを実現するために、以下に示すような具体的なプログラム達成目標を設定する。

・ 筑波大学とオハイオ州立大学の教員の確かな連携体制の確立

本プログラムのコンテンツを協働で作り上げることで、個々の教員間の連携のみならず、大学の管理運営側の連携体制を構築する。これは、プログラム終了後の教育・研究連携の継続にも繋がる、重要な達成目標となる。

・ UT-OSU 共通授業の構築

米国の大学は、授業料不徴収制度の敷居が高く、フレキシブルな連携が進まない現状がある。本プログラムにおいて共通授業を構築することで、今後、他の授業についても同様の手続きで授業の共通化が可能となることが期待できる。

・ つくば市、コロンバス市、協力企業等の参画

アントレプレナーシップ教育にとって、学外との協力は不可欠である。ISS-PBL 講義への参画のほか、インターンシップ受入などについても協力体制を築くことを計画している。

・ 毎年 20 名程度の学生の直接交流

ISS-PBL での優秀提案グループの学生に、相手校との直接交流を行うための渡航費用を支援する。オンライン交流から直接交流に有機的に移行することにより、直接交流の教育効果が格段に向上することが期待できる。

・ 学生の国際ビジネスコンテストやクラウドファンディングへの応募

ISS-PBL での優秀提案グループには、国際ビジネスコンテストやクラウドファンディングへの応募を促し、ソーシャルスタートアップ設立に繋げる。

・ JV-Campus を活用したオンライン教材の配信

筑波大とオハイオ州立大学の共同開設授業のコンテンツを他大学に公開することは、米国では一般的ではない。現在、オハイオ州立大学と協議中であるが、2 校間のみでコンテンツを共有できることを目指し、3 年目以降、可能なものから公開して、情報の共有化を図ることを計画している。

## (ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

上記の達成目標のうち、以下のものは 2024 年度までの達成を目指す。

- ・ 筑波大学と OSU の教員の連携体制の構築（共通授業開講に関連した連携）
- ・ UT-OSU 共通授業の構築
- ・ 学生主体の ISS サマーフェスティバルの実施（可能な規模で始め、徐々に拡張していく）
- ・ つくば市、コロンバス市、協力企業の参画（ISS-PBL 講義への参画のみ）
- ・ 毎年 10 名程度の学生の直接交流（2024 年度までは、授業立ち上げのための協力学生の交流とする）

## ② 養成しようとするグローバル人材像について

## (i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）

インクルーシブなスマートソサエティを創造できる国際スタートアップ人材として、本プログラムでは、EntreComp 基準に基づき、以下のような人材を養成する。

- (1) ダイバーシティ、インクルージョンについての高い意識と知識を有する人材
- (2) これからのスマートソサエティのあるべき姿についてのビジョンを描ける人材
- (3) グローバルな視野を持ち、社会課題を発見できる能力を有する人材
- (4) 国際社会で活動していくために必要な倫理観を有する人材
- (5) ダイバーシティを有する国際的なチーム内で十分なコミュニケーションが取れる語学力
- (6) 社会課題の解決のための様々なアイデアを的確に評価できる人材
- (7) オリジナリティのあるアイデアを提案できる創造性を有する人材
- (8) 困難に立ち向かうために必要なモチベーション、行動力、忍耐力を有する人材
- (9) よりよい社会を創るためにリーダーシップを発揮し、人を動かすことのできる人材
- (10) 大きなプロジェクトを計画し運営する能力を有する人材
- (11) 不確実性やリスクに対処する能力を有する人材
- (12) 経験から学ぶことのできる人材

このような人材を養成するために、本プログラムでは、以下のような具体的達成目標を設定する。

- ・ISS 基盤講義は、(1)～(4)の人材を養成するために必要な知識を提供し、学士課程の学生を中心に、毎年 400 名程度の単位取得者数をを目指す。
- ・ISS サポートプログラムは、(5)～(7)の人材を養成するために必要な知識を提供し、学士課程および博士前期・後期課程の学生を合わせて、毎年 100 名程度の参加を目指す。
- ・ISS サマーフェスティバルは、運営学生には(5)(8)～(12)の能力を獲得するための機会を提供し、参加学生(作品発表学生と鑑賞学生を含む)には(5)～(7)の人材を養成するための機会を提供する。毎年、30 名程度の運営学生と 200 名程度の参加学生を見込む。
- ・ISS-PBL は、(1)～(12)の人材を養成する知識および機会を提供し、毎年 100 名程度の単位取得者数をを目指す。
- ・ISS 派遣プログラムでは、(1)～(12)の人材を養成する知識および機会を提供し、毎年 20 名程度の参加者を見込む。

## 【具体的なアウトカムの目標】

本プログラムを受講した学生は、社会に出た後もインクルージョンやスマートソサエティに関する高い意識を持ち、社会を変えていく大きな力になる。

ISS サマーフェスティバル運営に参加した学生や ISS-PBL 講義の単位を取得した学生は、国際的リーダーシップを有する人材として、様々な場所で社会を変える主導的な役割を果たすことが期待される。

ISS 派遣プログラムに参加した学生の多くは、その後、ビジネスコンテストへの応募やスタートアップ立ち上げを目指す過程で、更なる知識・能力を獲得し、具体的にボトムアップで社会を変えていくことが期待される。

## (ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

2024 年度までは、本プログラムの講義やサマーフェスティバルの立ち上げ期であることから、実際に上記のように人材を養成していくための準備期間として位置づけられる。ただし、この過程では、担当教員と、学士課程、博士前期・後期課程の有志の学生数十名が協力してプログラムを立ち上げることになるため、そのようなプロセスの中で、上記(1)～(12)の人材が養成されることが期待される。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

### ③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

| 外国語力基準                    |                           | 達成目標                       |                            |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|
|                           |                           | 中間評価まで<br>(事業開始～2024 年度まで) | 事後評価まで<br>(事業開始～2027 年度まで) |
| 【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数 |                           | 830                        | 3,505                      |
| 1                         | TOEIC860 点以上 (CEFR B2 相当) | 83                         | 525                        |
| 2                         | TOEIC730 点以上 (CEFR B1 相当) | 290                        | 1,402                      |
| 3                         |                           |                            |                            |

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

本学がスーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）で定める外国語力基準（TOEFL-ITP550 点以上、換算 TOEIC730 点以上）を標準とする。同事業が終了となる 2023 年度末時点において、本基準を満たす学生は、学群・大学院を合わせて 32.2%を目標としている。本プログラムの中間評価時点では SGU 事業は終了していることから、これをすでに満たしているべき数値として本プログラムに参加する日本人学生の 35%、事後評価までに 40%が当該基準に達することを目標とする。

さらに、上位基準として TOEIC860 点以上を設定し、中間評価までに 10%、事後評価までに 15%当該基準に達することを目標とする。この基準は、CEFR における「Independent User (B2)」に相当する。本等級が示す熟達度は「専門分野の技術的な議論を含め、具体的・抽象的なトピックに関する複雑なテキストの主旨を理解できる。母語話者とお互いに緊張することなく交流することができる程度に流暢かつ自然である。幅広いテーマについて、明確で詳細な文章作成することができる」とされている。オハイオ州立大学の学生と協働で行う PBL、また実渡航を伴うプログラムでは現地でのプレゼンテーションを求めることから、目指すべき上位基準としてふさわしいと考える。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2027 年度まで）

ISS 基盤講義を本学学士課程の選択必修である総合科目（学士基盤科目）の 1 つとして位置づけ、多くの学生が受講できる体制を整える。特に初年次を対象とした科目となるため、英語で授業を受けることに慣れるための機会として位置づける。さらに、ISS-PBL を高年次向けの学士基盤科目として、より高度な実践力を身に付ける機会として設定する。これらの機会を通じ学生は外国語基礎力・実践力を向上させ、本プログラムで計画する ISS サマーフェスティバル、TGSW や筑波会議、実渡航プログラム等の場において、外国語運用能力の向上を図る。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2024 年度まで）

基本的には「(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2027 年度まで）」と同様であるが、各プログラムにおいて、4 技能を意識し、必要に応じて学生個々に対するサポートを行う。特に、PBL、実渡航プログラム、サマーフェスティバル等において、分かりやすく英語で説明ことができ、多様な立場の人々と議論できることを念頭におく。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

## ③-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

## (i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）

## ○筑波大学が定める汎用コンピテンスの獲得

本学では、教育目標を達成するために、学士課程／修士課程／博士課程を問わず、すべての学生が習得すべき具体的な知識・能力等として、汎用コンピテンスを定めている。本プログラムは、全学共通科目において開講することから、学生はプログラムの履修を通じて汎用コンピテンスを獲得することができるような仕組みが構築される。汎用コンピテンスの内訳は、学士レベル／修士レベル／博士レベルで異なっており、具体的には下表のとおりである。

## 【筑波大学汎用コンピテンス】

|    |                                                                       |
|----|-----------------------------------------------------------------------|
| 学士 | コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・倫理性、協働性・主体性・自律性 |
| 修士 | 知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性                                |
| 博士 | 知の創生力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性                                |

本プログラムで養成する人材像である「社会を変える革新アイデアを提案し、実現できる国際ソーシャルスタートアップ人材」と照らし合わせて、開講する予定の科目で獲得するコンピテンスを下表のとおり設定する。授業を履修するすべての学生が、これら汎用コンピテンスを獲得することを目指す。

## 【本プログラムで開講する科目で獲得できる汎用コンピテンス】

|    | ISS 基盤講義                           | ISS-PBL                                                               |
|----|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 学士 | コミュニケーション能力、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・倫理性 | コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・倫理性、協働性・主体性・自律性 |
| 修士 | (原則対象外)                            | 知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性                                |
| 博士 | (原則対象外)                            | 知の創生力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性                                |

## ○EntreComp の獲得

様式 2②で記述したとおり、本プログラムに参加する学生は、筑波大学の汎用コンピテンスとは別途、アントレプレナーシップに特化したコンピテンスを獲得することができる。コンピテンス及びその評価方法は“EntreComp: The European Entrepreneurship Competence Framework” に則って設定し、プログラムを総括する際に評価を明示した修了証を渡す。事業最終年度までには、Progression levels における EXPERT 相当の能力を有する学生を輩出する。

## (ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

## ○筑波大学が定める汎用コンピテンスの獲得

2024 年度の ISS 基盤講義及び ISS-PBL 開講にあたって、コンピテンス値を適切に設定し、履修した学生がこれら能力を着実に獲得できるように意識しながら教授する。

## ○EntreComp の獲得

まず、2023 年度中に EnterComp に基づいたルーブリックを作成し、2024 年度に開講する ISS 基盤講義と ISS-PBL に評価システムとして適用する。2024 年度の授業を通じて Progression levels における INTERMEDIATE 相当以上の能力を有する学生を輩出すると同時に、プログラム内容や評価方法についてさらに改善を図る。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## ④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

## (i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）

## ○オハイオ州立大学とのシラバスの共有

共通科目として開講する ISS 基盤講義と ISS-PBL について、オハイオ州立大学とシラバスを共有する。事業最終年度までには、オハイオ州立大学が受審している認証評価機関の示すガイドラインにも準拠した内容を目指す。

## ○共同教育体制の充実 (FD)

ISS 基盤講義では筑波大学の教員数名とオハイオ州立大学の教員数名がチームを組んで授業を行う。そのため、学生に質の高い教育を提供するには、到達すべき授業目標を、関連するすべての教員が共有し、その目標に基づいて授業内容を協力して構築する必要がある。また、ISS-PBL や ISS サマーフェスティバルにおいても同様に教員間の協力が不可欠である。

ISS 基盤講義、ISS-PBL、ISS サマーフェスティバル等の各交流プログラムについて、年 1 回以上、筑波大学の担当教員とオハイオ州立大学の担当教員が議論し、内容の改善を図る。事業最終年度までには関連する組織からのアドバイスも取り入れて、担当教員の教育力をさらに向上させる仕組みも確立する。具体的に、本プログラムはアントレプレナーシップ教育を行うことから、①筑波大学の国際産学連携本部の指導を受ける、②つくば市の筑波スーパーシティ構想に関わる教員等から指導を受けることを想定する。

## ○企業や自治体等と協力したインターンシップの実施（筑波トランスボーダーインターンシップ）

ISS 派遣プログラムに参加する両大学の学生が国際的な舞台で自己研鑽できるように、コロンバス市（筑波大学生）／つくば市（オハイオ州立大学生）において有給インターンシップに参加できる仕組みを構築する。2025 年度からプログラムを開始し、事業最終年度までには複数の機関が協賛する状況を目指す。また同時に、将来研究者を志す学生のために、互いの大学の研究室において、無給インターンシップを行うことができる環境も整備する。

## ○修了証の発行

③-2 にて記述したとおり、本プログラムでは EntreComp に基づいたルーブリックを作成し、参加した学生が自身の達成水準を把握できるような修了証を発行し渡す。また、ISS サマーフェスティバルへの参加者にもインクルーシブの観点で評価した修了証を渡す。

## (ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

## ○オハイオ州立大学とのシラバス共有

2024 年度の ISS 基盤講義及び ISS-PBL 科目開講に伴い、2023 年度に「筑波大学：シラバス作成のためのガイドライン」に則ってシラバスを作成し、内部質保証を確実にする。共通科目である本科目については、総合智教育推進委員会の管理下に置かれる。シラバスは日英両言語で作成したうえ、オハイオ州立大学と内容を協議する。

## ○共同教育体制の構築 (FD)

2023 年度は授業開講に向けて、互いを知る機会を設けたうえ、教育プログラムの具体的内容・スケジュール・教材等について議論することを目的とした FD を対面で行う。開講後も非定期的に FD を実施し、教育力向上を図り、共同指導体制を充実させる。ISS-PBL や ISS サマーフェスティバルにおいても同様に、質の高いプログラムとなるように年 1 回以上の議論を行う。

## ○企業や自治体等と協力したインターンシップの実施

2025 年度から開始するために、2024 年度までに 1 機関以上の連携先を確保する。

## ○修了証の発行

2024 年度までには、ルーブリック評価の妥当性まで含めて、どのような修了証が望ましいか、検証する。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

| ⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |            |            |            |            |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| 現状（2023 年 5 月 1 日現在）※ 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 90 人       |            |            |            |            |      |
| (i) 日本人学生数の達成目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |            |            |            |            |      |
| 単位：人（延べ人数）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |            |            |            |            |            |      |
| 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 3505       |            |            |            |            |      |
| 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 830        |            |            |            |            |      |
| (上記の内訳)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |            |            |            |            |      |
| (ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |            |            |            |            |            |      |
| 単位：人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |            |            |            |            |      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計   |
| 実際に渡航する学生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 10         | 20         | 25         | 25         | 25         | 105  |
| 自国にて国際教育・交流プログラムを<br>オンラインで受講する学生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 100        | 700        | 800        | 900        | 900        | 3400 |
| 実渡航とオンライン受講を行う学生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
| 合計人数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 110        | 720        | 825        | 925        | 925        | 3505 |
| (a) 実渡航による交流                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |            |            |            |            |            |      |
| ○事業計画全体                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |            |            |            |            |      |
| ISS-PBL において優秀な成績を修めたいいくつかのグループをオハイオ州立大学に派遣し、チームを組んだオハイオ州立大学の学生と協働して、ISS-PBL で生まれたアイデアを社会実装へと導く活動を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| ○中間評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| 2023 年度及び 2024 年度については、学生の立場で本プログラムの準備／改善を行うために、10-20 名程度の派遣を計画している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |            |            |            |            |      |
| (b) オンラインによる交流                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |            |            |            |            |            |      |
| ○事業計画全体                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |            |            |            |            |      |
| ISS 基盤講義は、共通科目のうち「学士基盤科目」の一つとして開講する予定である。「学士基盤科目」は学群生の選択必修科目となっており、学群生の需要は高い。また、基本は講義形式のため、幅広く学生を受け入れられることから、秋学期 200 人×2 科目、合計 400 人／年と想定している。ISS-PBL は、同じ共通科目のうち「高年次学士基盤科目」の一つとして開講する予定で、100 人／年の参加を想定する。ISS 関連科目に学生を呼び込むため、教育担当副学長から学生に受講を推薦するアナウンスを出す。ISS サマーフェスティバルは、筑波大学においてオンサイト・オンラインで開催するが、筑波大学の学生が米国へ渡航することは想定していないため、すべてオンラインに計上した。体育・芸術を中心に参加者を増やすことにより、事業最終年度までには 300 人を目指す。その他、本プログラム全体を下支えし ISS 基盤講義や ISS-PBL へ繋がる ISS サポートプログラムも 100 人／年を見込む。 |            |            |            |            |            |      |
| ○中間評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| 2023 年度は、本プログラムに関わる教員が 2024 年度以降の本格始動に向けて、ISS 関連交流プログラムとして個別に学生が交流する場を作る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |            |            |            |            |            |      |
| (c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |            |            |            |            |            |      |
| ISS-PBL と ISS 派遣プログラムは関連しているが、①ISS-PBL の評価は同授業内で完結していること、②ISS-PBL は共通科目として正課活動の範疇である一方で ISS 派遣プログラムは ISS-PBL で生まれたアイデアの社会実装を目指す正課外活動であることから、別個のプログラムであると認識している。したがって、ハイブリッド型の交流は想定していない。                                                                                                                                                                                                                                                                     |            |            |            |            |            |      |

※ 1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における 2023 年 5 月 1 日現在の人数。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

| ⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】                                                                                                                                                                             |            |            |            |            |            |      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| 現状（2023 年 5 月 1 日現在）※ 1                                                                                                                                                                                        | 2232 人     |            |            |            |            |      |
| (i) 外国人学生数の達成目標                                                                                                                                                                                                |            |            |            |            |            |      |
| 単位：人（延べ人数）                                                                                                                                                                                                     |            |            |            |            |            |      |
| 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）                                                                                                                                                                                    | 1805       |            |            |            |            |      |
| 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）                                                                                                                                                                                    | 460        |            |            |            |            |      |
| (上記の内訳)                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| (ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）                                                                                                                                                               |            |            |            |            |            |      |
| 単位：人                                                                                                                                                                                                           |            |            |            |            |            |      |
|                                                                                                                                                                                                                | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計   |
| 実際に渡航する学生                                                                                                                                                                                                      | 0          | 10         | 15         | 15         | 15         | 55   |
| 自国にて国際教育・交流プログラムを<br>オンラインで受講する学生                                                                                                                                                                              | 100        | 300        | 300        | 300        | 300        | 1300 |
| 実渡航とオンライン受講を行う学生                                                                                                                                                                                               | 0          | 50         | 100        | 150        | 150        | 450  |
| 合計人数                                                                                                                                                                                                           | 100        | 360        | 415        | 465        | 465        | 1805 |
| (a) 実渡航による交流                                                                                                                                                                                                   |            |            |            |            |            |      |
| ○事業計画全体                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| 派遣人数と受入人数のバランス、学生支援に充当することができる予算を考慮して、10-15 人／年を見積もった。来日した学生は、スーパーシェンティとしてのつくば市や地域企業等に関して見識を深めながら、ISS-PBL でチームを組んだ筑波大学生とさらに協働してアイデアを形にしていける。                                                                   |            |            |            |            |            |      |
| ○中間評価                                                                                                                                                                                                          |            |            |            |            |            |      |
| 2024 年度の ISS-PBL で優秀な成績を修めた 10 名程度を筑波大学へ迎え入れる。初回の受入となるため、学生のニーズをつぶさに吸い上げて次年度以降に生かすよう心掛ける。                                                                                                                      |            |            |            |            |            |      |
| (b) オンラインによる交流                                                                                                                                                                                                 |            |            |            |            |            |      |
| ○事業計画全体                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| ISS 基盤講義は、核となるプログラムの一つであるが、学年暦の違いにも考慮して、秋学期 50 人×2 科目、合計 100 人／年の参加を想定している。より多くの学生に受講してもらうため、ISS 基盤講義でチームを組むオハイオ州立大学の教員から、学生に当プログラムの魅力を伝えてもらう。ISS-PBL や ISS サポートプログラムについては、バランスのとれた交流になると思われるため、日本人学生と同数を設定した。 |            |            |            |            |            |      |
| ○中間評価                                                                                                                                                                                                          |            |            |            |            |            |      |
| 一人でも多くの学生に参加してもらい、質の高い教育プログラムを提供することにより、2025 年度以降の受講者増を期待する。                                                                                                                                                   |            |            |            |            |            |      |
| (c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流                                                                                                                                                                                 |            |            |            |            |            |      |
| ○事業計画全体                                                                                                                                                                                                        |            |            |            |            |            |      |
| ISS サマーフェスティバルに参画するオハイオ州立大学の学生は、事前準備にオンラインで参加したうえ、オンサイトでイベントに参加する可能性があることから、ハイブリッド型の交流の人数に計上した。参加規模としては、筑波大学生の半分程度を見込んでいる。目標人数を達成するために、本学からオハイオ州立大学の担当者にお話し、興味がありそうな学生に作品や企画を提供してもらうよう促す。                      |            |            |            |            |            |      |
| ○中間評価                                                                                                                                                                                                          |            |            |            |            |            |      |
| 2024 年度までには、ISS サマーフェスティバルを開催し、50 人程度の参加を目指す。                                                                                                                                                                  |            |            |            |            |            |      |

※ 1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における 2023 年 5 月 1 日現在の人数。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

⑦ 交流学生数について（2023年度は事業開始以後の人数）（単位：人）  
○ 実渡航の派遣期間と派遣数（短期・中期・長期）について適切な目標が設定されているか。（★）

（i）本事業で計画している交流学生数

| 各年度の派遣及び受入合計人数<br>（交流期間、単位取得の有無等の<br>内訳は（iii）表参照） | 2023年度 |     | 2024年度 |     | 2025年度 |     | 2026年度 |     | 2027年度 |     | 合計   |      |
|---------------------------------------------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|------|------|
|                                                   | 派遣     | 受入  | 派遣     | 受入  | 派遣     | 受入  | 派遣     | 受入  | 派遣     | 受入  | 派遣   | 受入   |
|                                                   | 110    | 100 | 720    | 360 | 825    | 415 | 925    | 465 | 925    | 465 | 3505 | 1805 |
| 実際に渡航する学生<br>（以下「実渡航」）                            | 10     |     | 20     | 10  | 25     | 15  | 25     | 15  | 25     | 15  | 105  | 55   |
| 自国にて国際教育・交流プログラムをオ<br>ンラインで受講する学生<br>（以下「オンライン」）  | 100    | 100 | 700    | 300 | 800    | 300 | 900    | 300 | 900    | 300 | 3400 | 1300 |
| 実渡航とオンライン受講を行う学生（以<br>下「ハイブリッド」）                  |        |     |        | 50  |        | 100 |        | 150 |        | 150 | 0    | 450  |

（ii）国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

|      |   |                          |     |   |      |             |                        |
|------|---|--------------------------|-----|---|------|-------------|------------------------|
| 交流形態 | ① | 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流      | 学生別 | A | 学部生  | 実<br>オ<br>ハ | 実渡航<br>オンライン<br>ハイブリッド |
|      | ② | 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 |     | B | 大学院生 |             |                        |
|      | ③ | 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流      |     |   |      |             |                        |
|      | ④ | 上記以外の交流期間30日未満の交流        |     |   |      |             |                        |
|      | ⑤ | 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流   |     |   |      |             |                        |
|      | ⑥ | 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流        |     |   |      |             |                        |

1. 【代表申請大学】

| 大学名                 |  |          |          |     | 筑波大学   |    | 採択実績 |        | あり  |    |        |     |     |        |     |     |        |     |     |      |
|---------------------|--|----------|----------|-----|--------|----|------|--------|-----|----|--------|-----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|-----|------|
| 交流プログラム名<br>(相手大学名) |  | 交流<br>方向 | 交流<br>形態 | 学生別 | 2023年度 |    |      | 2024年度 |     |    | 2025年度 |     |     | 2026年度 |     |     | 2027年度 |     |     | 合計   |
|                     |  |          |          |     | 実      | オ  | ハ    | 実      | オ   | ハ  | 実      | オ   | ハ   | 実      | オ   | ハ   | 実      | オ   | ハ   |      |
| ISS派遣プログラム          |  | 派遣       | ④        | A   | 5      |    |      | 10     |     |    | 12     |     |     | 12     |     |     | 12     |     |     | 51   |
| ISS派遣プログラム          |  | 派遣       | ④        | B   | 5      |    |      | 10     |     |    | 13     |     |     | 13     |     |     | 13     |     |     | 54   |
| ISS派遣プログラム          |  | 受入       | ④        | A   |        |    |      | 5      |     |    | 8      |     |     | 8      |     |     | 8      |     |     | 29   |
| ISS派遣プログラム          |  | 受入       | ④        | B   |        |    |      | 5      |     |    | 7      |     |     | 7      |     |     | 7      |     |     | 26   |
| ISS-PBL             |  | 派遣       | ②        | B   |        |    |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 200  |
| ISS-PBL             |  | 派遣       | ②        | A   |        |    |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 200  |
| ISS-PBL             |  | 受入       | ②        | B   |        |    |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 200  |
| ISS-PBL             |  | 受入       | ②        | A   |        |    |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 200  |
| ISS基盤講義             |  | 派遣       | ②        | A   |        |    |      |        | 400 |    |        | 400 |     |        | 400 |     |        | 400 |     | 1600 |
| ISS基盤講義             |  | 受入       | ②        | A   |        |    |      |        | 100 |    |        | 100 |     |        | 100 |     |        | 100 |     | 400  |
| ISSサマーフェスティバル       |  | 派遣       | ①        | A   |        |    |      |        | 100 |    |        | 200 |     |        | 300 |     |        | 300 |     | 900  |
| ISSサマーフェスティバル       |  | 受入       | ①        | A   |        |    |      |        |     | 50 |        |     | 100 |        |     | 150 |        |     | 150 | 450  |
| ISSサポートプログラム        |  | 派遣       | ④        | A   |        | 50 |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 250  |
| ISSサポートプログラム        |  | 派遣       | ④        | B   |        | 50 |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 250  |
| ISSサポートプログラム        |  | 受入       | ④        | A   |        | 50 |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 250  |
| ISSサポートプログラム        |  | 受入       | ④        | B   |        | 50 |      |        | 50  |    |        | 50  |     |        | 50  |     |        | 50  |     | 250  |

|                              | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 5年間合計  |                    |
|------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全学収容定員数※（C）                  | 12,404 | 12,367 | 12,330 | 12,294 | 12,258 | 61,653 | 12,331 収容定員平均      |
| 対米国派遣人数合計（D）                 | 110    | 720    | 825    | 925    | 925    | 3,505  | 701 対米国派遣人数<br>平均  |
| 対米国派遣人数合計（D）／<br>全学収容定員数※（C） | 0.89%  | 5.82%  | 6.69%  | 7.52%  | 7.55%  | 5.69%  | 5.5% 交流割合平均<br>基準値 |
| （参考）対米国派遣人数<br>基準値           | 682    | 680    | 678    | 676    | 674    | 3,391  |                    |

※1：学則に定める大学全体の収容定員数のうち、日本人学生の数  
※2：①米国に実渡航した日本人学生数（各プログラム参加数を延べ人数でカウント）、②オンラインで米国の学生等と交流した日本人学生数（1年間で複数のプログラムに参加した場合は1カウント）及び③実渡航とオンラインのハイブリッドで米国の学生等と交流した日本人学生数の計

2. 【国内連携大学等】

| 大学名                 |          |          |     | 採択実績   |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   |    |
|---------------------|----------|----------|-----|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|----|
| 交流プログラム名<br>(相手大学名) | 交流<br>方向 | 交流<br>形態 | 学生別 | 2023年度 |   |   | 2024年度 |   |   | 2025年度 |   |   | 2026年度 |   |   | 2027年度 |   |   | 合計 |
|                     |          |          |     | 実      | 才 | ハ | 実      | 才 | ハ | 実      | 才 | ハ | 実      | 才 | ハ | 実      | 才 | ハ |    |
|                     | 派遣       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                     | 受入       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                     | 派遣       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                     | 受入       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |

|                              | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度  | 2027年度  | 5年間合計   |                          |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------------------|
| 全学収容定員数※（C）                  |         |         |         |         |         | 0       | #DIV/0!<br>収容定員平均        |
| 対米国派遣人数合計（D）                 |         |         |         |         |         | 0       | #DIV/0!<br>対米国派遣人数<br>平均 |
| 対米国派遣人数合計（D）／<br>全学収容定員数※（C） | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | 0.0%<br>交流割合平均<br>基準値    |
| （参考）対米国派遣人数<br>基準値           | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |                          |

※1：学則に定める大学全体の収容定員数のうち、日本人学生の数  
※2：①米国に実渡航した日本人学生数（各プログラム参加数を延べ人数でカウント）、②オンラインで米国の学生等と交流した日本人学生数（1年間で複数のプログラムに参加した場合は1カウント）及び③実渡航とオンラインのハイブリッドで米国の学生等と交流した日本人学生数の計

（大学名： 筑波大学 ） （タイプ： A ）

|                                      |        |            |            |            |            |            |      |
|--------------------------------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| (iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計） |        |            |            |            |            |            |      |
| 【日本人学生の派遣】                           |        | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計   |
| 年度別合計人数                              | 学生別    | 110        | 720        | 825        | 925        | 925        | 3505 |
| 【交流形態別 内訳】                           |        |            |            |            |            |            |      |
| ① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流                |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
|                                      | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | オンライン  |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流           |        | 0          | 400        | 400        | 400        | 400        | 1600 |
|                                      | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | オンライン  |            | 400        | 400        | 400        | 400        | 1600 |
|                                      | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流                |        | 0          | 100        | 100        | 100        | 100        | 400  |
|                                      | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | オンライン  |            | 100        | 100        | 100        | 100        | 400  |
|                                      | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ④ 上記以外の交流期間30日未満の交流                  |        | 110        | 220        | 325        | 425        | 425        | 1505 |
|                                      | 実渡航    | 10         | 20         | 25         | 25         | 25         | 105  |
|                                      | オンライン  | 100        | 200        | 300        | 400        | 400        | 1400 |
|                                      | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流             |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
|                                      | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | オンライン  |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流                  |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
|                                      | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | オンライン  |            |            |            |            |            | 0    |
|                                      | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |

(大学名： 筑波大学 ) (タイプ： A ) )

| 【外国人学生の受入】                 |        | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計   |
|----------------------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| 年度別合計人数                    | 学生別    | 100        | 360        | 415        | 465        | 465        | 1805 |
| 【交流形態別 内訳】                 |        |            |            |            |            |            |      |
| ① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流      |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 |        | 0          | 100        | 100        | 100        | 100        | 400  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | オンライン  |            | 100        | 100        | 100        | 100        | 400  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流      |        | 0          | 100        | 100        | 100        | 100        | 400  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | オンライン  |            | 100        | 100        | 100        | 100        | 400  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ④ 上記以外の交流期間30日未満の交流        |        | 100        | 160        | 215        | 265        | 265        | 1005 |
|                            | 実渡航    |            | 10         | 15         | 15         | 15         | 55   |
|                            | オンライン  | 100        | 100        | 100        | 100        | 100        | 500  |
|                            | ハイブリッド |            | 50         | 100        | 150        | 150        | 450  |
| ⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流   |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |
| ⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流        |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0    |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0    |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0    |

(大学名： 筑波大学 ) (タイプ： A ) )

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣【計画】

| 年度 | 交流期間 |      | 派遣元大学 | 派遣先大学    | 派遣相手国 | 交流内容<br>(交流プログラム名等) | 交流形態                           | 学生別 | 交流学<br>生数 | (内訳) |           |            |
|----|------|------|-------|----------|-------|---------------------|--------------------------------|-----|-----------|------|-----------|------------|
|    |      |      |       |          |       |                     |                                |     |           | 実渡航  | オンラ<br>イン | ハイブ<br>リッド |
| 23 | 3    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 5         | 5    |           |            |
|    | 3    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 5         | 5    |           |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50        |      | 50        |            |
| 24 | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 10        | 10   |           |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 10        | 10   |           |            |
|    | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50        |      | 50        |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 100       |      | 100       |            |
|    | 10   | ~ 11 | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 400       |      | 400       |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50        |      | 50        |            |
| 25 | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50        |      | 50        |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 12        | 12   |           |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 13        | 13   |           |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 200       |      | 200       |            |
|    | 10   | ~ 11 | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 400       |      | 400       |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50        |      | 50        |            |
| 26 | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50        |      | 50        |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 12        | 12   |           |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 13        | 13   |           |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 300       |      | 300       |            |
|    | 10   | ~ 11 | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 400       |      | 400       |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50        |      | 50        |            |
| 27 | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 12   | ~ 2  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50        |      | 50        |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 12        | 12   |           |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 13        | 13   |           |            |
|    | 8    | ~ 9  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 300       |      | 300       |            |
|    | 10   | ~ 11 | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 400       |      | 400       |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50        |      | 50        |            |
|    | 4    | ~ 3  | 筑波大学  | オハイオ州立大学 | 米国    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50        |      | 50        |            |

②外国人学生の受入【計画】

| 年度 | 交流期間 |   |    | 派遣元大学    | 派遣相手国 | 派遣先大学 | 交流内容<br>(交流プログラム名等) | 交流形態                           | 学生別 | 交流学生数 | (内訳) |       |        |
|----|------|---|----|----------|-------|-------|---------------------|--------------------------------|-----|-------|------|-------|--------|
|    |      |   |    |          |       |       |                     |                                |     |       | 実渡航  | オンライン | ハイブリッド |
| 23 | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50    |      | 50    |        |
| 24 | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 5     | 5    |       |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 5     | 5    |       |        |
|    | 8    | ~ | 9  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50    |      |       | 50     |
|    | 10   | ~ | 11 | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 100   |      | 100   |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50    |      | 50    |        |
|    |      |   |    |          |       |       |                     |                                |     |       |      |       |        |
| 25 | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 8     | 8    |       |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 7     | 7    |       |        |
|    | 8    | ~ | 9  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 100   |      |       | 100    |
|    | 10   | ~ | 11 | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 100   |      | 100   |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50    |      | 50    |        |
| 26 | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 8     | 8    |       |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 7     | 7    |       |        |
|    | 8    | ~ | 9  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 150   |      |       | 150    |
|    | 10   | ~ | 11 | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 100   |      | 100   |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50    |      | 50    |        |
| 27 | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 12   | ~ | 2  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS-PBL             | ③：単位取得を伴う<br>交流期間3ヶ月以上の交流      | B   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 8     | 8    |       |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS派遣プログラム          | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 7     | 7    |       |        |
|    | 8    | ~ | 9  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサマーフェスティバル       | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 150   |      |       | 150    |
|    | 10   | ~ | 11 | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISS基盤講義             | ②：単位取得を伴う交流期間<br>30日以上3ヶ月未満の交流 | A   | 100   |      | 100   |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | A   | 50    |      | 50    |        |
|    | 4    | ~ | 3  | オハイオ州立大学 | 筑波大学  | 日本    | ISSサポートプログラム        | ④：上記以外の<br>交流期間30日未満の交流        | B   | 50    |      | 50    |        |

(大学名： 筑波大学 ) (タイプ： A )

⑧ 海外相手大学との単位互換について

○ 海外相手大学との単位互換について適切な目標が設定されているか。

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

| 単位互換を実施する<br>海外相手大学数 | 2023年度 |    | 2024年度 |    | 2025年度 |    | 2026年度 |    | 2027年度 |    | 合計 |    |
|----------------------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|----|----|
|                      | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣 | 受入 |
|                      | 1      | 1  | 1      | 1  | 1      | 1  | 1      | 1  | 1      | 1  | 5  | 5  |

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

| 相手大学名      |       | 学生<br>別 | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計   |
|------------|-------|---------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| オハイオ州立大学   | 認定者数  | A       |            | 450        | 450        | 450        | 450        | 1800 |
|            | 認定単位数 | A       |            | 450        | 450        | 450        | 450        | 1800 |
| オハイオ州立大学   | 認定者数  | B       |            | 50         | 50         | 50         | 50         | 200  |
|            | 認定単位数 | B       |            | 50         | 50         | 50         | 50         | 200  |
|            | 認定者数  |         |            |            |            |            |            | 0    |
|            | 認定単位数 |         |            |            |            |            |            | 0    |
| 年度別認定者数合計  |       |         | 0          | 500        | 500        | 500        | 500        | 2000 |
| 年度別認定単位数合計 |       |         | 0          | 500        | 500        | 500        | 500        | 2000 |

2. 国内連携大学 【大学名： 】

| 相手大学名      |       | 学生<br>別 | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計 |
|------------|-------|---------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
|            | 認定者数  |         |            |            |            |            |            | 0  |
|            | 認定単位数 |         |            |            |            |            |            | 0  |
|            | 認定者数  |         |            |            |            |            |            | 0  |
|            | 認定単位数 |         |            |            |            |            |            | 0  |
|            | 認定者数  |         |            |            |            |            |            | 0  |
|            | 認定単位数 |         |            |            |            |            |            | 0  |
| 年度別認定者数合計  |       |         | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
| 年度別認定単位数合計 |       |         | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |

(大学名： 筑波大学 ) (タイプ： A )

⑨ オンライン教育を受けた学生数の内、実渡航につながった学生数について

○ オンライン教育を受けた学生数の内、実渡航につながった学生数（国別、学部・大学院別）について適切な目標が設定されているか。（★）

|     |   |      |
|-----|---|------|
| 学生別 | A | 学部生  |
|     | B | 大学院生 |

1. 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

| 交流プログラム名<br>(相手大学名)              |                                 | 学生<br>別 | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計 |
|----------------------------------|---------------------------------|---------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
| ISS-PBL→ISS派遣プログラム<br>(オハイオ州立大学) | 実渡航した学生                         | A       |            | 10         | 12         | 12         | 12         | 46 |
|                                  | 上記の内、実渡航<br>前にオンライン教<br>育を受けた学生 | A       |            | 10         | 12         | 12         | 12         | 46 |
| ISS-PBL→ISS派遣プログラム<br>(オハイオ州立大学) | 実渡航した学生                         | B       |            | 10         | 13         | 13         | 13         | 49 |
|                                  | 上記の内、実渡航<br>前にオンライン教<br>育を受けた学生 | B       |            | 10         | 13         | 13         | 13         | 49 |
|                                  | 実渡航した学生                         |         |            |            |            |            |            | 0  |
|                                  | 上記の内、実渡航<br>前にオンライン教<br>育を受けた学生 |         |            |            |            |            |            | 0  |
| 実渡航した学生数合計                       |                                 |         | 0          | 20         | 25         | 25         | 25         | 95 |
| 上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計        |                                 |         | 0          | 20         | 25         | 25         | 25         | 95 |

2. 国内連携大学 【大学名： 】

| 交流プログラム名<br>(相手大学名)       |                                 | 学生<br>別 | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計 |
|---------------------------|---------------------------------|---------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
|                           | 実渡航した学生                         |         |            |            |            |            |            | 0  |
|                           | 上記の内、実渡航<br>前にオンライン教<br>育を受けた学生 |         |            |            |            |            |            | 0  |
|                           | 実渡航した学生                         |         |            |            |            |            |            | 0  |
|                           | 上記の内、実渡航<br>前にオンライン教<br>育を受けた学生 |         |            |            |            |            |            | 0  |
|                           | 実渡航した学生                         |         |            |            |            |            |            | 0  |
|                           | 上記の内、実渡航<br>前にオンライン教<br>育を受けた学生 |         |            |            |            |            |            | 0  |
| 実渡航した学生数合計                |                                 |         | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
| 上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計 |                                 |         | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |

⑩ 米国等との大学との間で実施する真に学び合う学修活動（アクティブラーニング等）数について

○ 米国等との大学との間で実施する真に学び合う学修活動（アクティブラーニング等）数について適切な目標が設定されているか。（★）

|   | 協働／共修学修活動 名称  | 開催年月               | 開催回数 | 参加人数 | 参加国   |
|---|---------------|--------------------|------|------|-------|
| 1 | ISS基盤講義       | 2024-27年<br>10-11月 | 8    | 2000 | 日本、米国 |
| 2 | ISS-PBL       | 2024-27年<br>12-2月  | 4    | 800  | 日本、米国 |
| 3 | ISS派遣プログラム    | 2023-27年<br>4-3月   | 8    | 160  | 日本、米国 |
| 4 | ISSサマーフェスティバル | 2024-27年<br>8月     | 4    | 1350 | 日本、米国 |
| 5 |               |                    |      |      |       |

（大学名： 筑波大学 ） （タイプ： A ）

⑪ 学生主催イベント・ワークショップの開催数、参加規模について。

○ 学生主催イベント・ワークショップの開催数、参加規模（人数、参加国、実渡航・オンライン・ハイブリッド）について適切な目標が設定されているか。（★）

|    |   |        |
|----|---|--------|
| 形態 | 実 | 実渡航    |
|    | オ | オンライン  |
|    | ハ | ハイブリッド |

|   | イベント・ワークショップ名 | 形態 | 開催年月           | 開催回数 | 参加人数    | 参加国   |
|---|---------------|----|----------------|------|---------|-------|
| 1 | ISSサマーフェスティバル | ハ  | 2024-27年<br>8月 | 4    | 1350    | 日本、米国 |
| 2 | TGWS学生企画セッション | ハ  | 9月～10月         | 2回   | 100-200 | 日、米ほか |
| 3 | 筑波会議学生企画セッション | ハ  | 9月～10月         | 2回   | 100-200 | 日、米ほか |
| 4 |               |    |                |      |         |       |
| 5 |               |    |                |      |         |       |

（大学名： 筑波大学 ） （タイプ： A ）

⑫ インターンシップの実施計画について（2023年度は事業開始以後の人数）（単位：人）  
○ インターンシップを行う計画の場合は参加人数等（派遣・受入別、実渡航・オンライン・ハイブリッド、単位取得の有無や期間、学部・大学院別）について適切な目標が設定されているか。（★）

（ⅰ）本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数

| 各年度の派遣及び受入合計人数<br>（交流期間、単位取得の有無等<br>の内訳は（ⅲ）表参照） | 2023年度 |    | 2024年度 |    | 2025年度 |    | 2026年度 |    | 2027年度 |    | 合計 |    |
|-------------------------------------------------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|----|----|
|                                                 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣     | 受入 | 派遣 | 受入 |
|                                                 | 0      | 0  | 0      | 0  | 10     | 6  | 10     | 6  | 12     | 8  | 32 | 20 |
| 実際に渡航する学生<br>（以下「実渡航」）                          |        |    |        |    | 10     | 6  | 10     | 6  | 12     | 8  | 32 | 20 |
| 自国にてインターンシップをオンラ<br>インで受講する学生<br>（以下「オンライン」）    |        |    |        |    |        |    |        |    |        |    | 0  | 0  |
| 実渡航とオンライン受講を行う学生<br>（以下「ハイブリッド」）                |        |    |        |    |        |    |        |    |        |    | 0  | 0  |

（ⅱ）国内大学及びプログラムごとのインターンシップに参加する学生数

|      |   |                          |     |   |      |             |                        |
|------|---|--------------------------|-----|---|------|-------------|------------------------|
| 交流形態 | ① | 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流      | 学生別 | A | 学部生  | 実<br>オ<br>ハ | 実渡航<br>オンライン<br>ハイブリッド |
|      | ② | 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 |     | B | 大学院生 |             |                        |
|      | ③ | 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流      |     |   |      |             |                        |
|      | ④ | 上記以外の交流期間30日未満の交流        |     |   |      |             |                        |
|      | ⑤ | 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流   |     |   |      |             |                        |
|      | ⑥ | 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流        |     |   |      |             |                        |

1. 【代表申請大学】

| 大学名                        |  |  |  | 2023年度   |          |     | 2024年度 |   |   | 2025年度 |   |   | 2026年度 |   |   | 2027年度 |   |   | 合計 |
|----------------------------|--|--|--|----------|----------|-----|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|----|
| プログラム名<br>（相手大学名）          |  |  |  | 交流<br>方向 | 交流<br>形態 | 学生別 | 実      | オ | ハ | 実      | オ | ハ | 実      | オ | ハ | 実      | オ | ハ |    |
| 筑波トランスボーダーインター<br>シッププログラム |  |  |  | 派遣       | ⑤        | A   |        |   |   |        |   |   | 1      |   |   | 1      |   |   | 4  |
| 筑波トランスボーダーインター<br>シッププログラム |  |  |  | 受入       | ⑤        | A   |        |   |   |        |   |   | 1      |   |   | 1      |   |   | 4  |
| 筑波トランスボーダーインター<br>シッププログラム |  |  |  | 派遣       | ⑤        | B   |        |   |   |        |   |   | 9      |   |   | 9      |   |   | 28 |
| 筑波トランスボーダーインター<br>シッププログラム |  |  |  | 受入       | ⑤        | B   |        |   |   |        |   |   | 5      |   |   | 5      |   |   | 16 |
|                            |  |  |  | 派遣       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                            |  |  |  | 受入       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |

2. 【国内連携大学】

| 大学名               |  |  |  | 2023年度   |          |     | 2024年度 |   |   | 2025年度 |   |   | 2026年度 |   |   | 2027年度 |   |   | 合計 |
|-------------------|--|--|--|----------|----------|-----|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|----|
| プログラム名<br>（相手大学名） |  |  |  | 交流<br>方向 | 交流<br>形態 | 学生別 | 実      | オ | ハ | 実      | オ | ハ | 実      | オ | ハ | 実      | オ | ハ |    |
|                   |  |  |  | 派遣       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                   |  |  |  | 受入       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                   |  |  |  | 派遣       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |
|                   |  |  |  | 受入       |          |     |        |   |   |        |   |   |        |   |   |        |   |   | 0  |

（大学名： 筑波大学 ） （タイプ： A ）

(iii) 本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

| 【日本人学生の派遣】                 |        | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計 |
|----------------------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
| 年度別合計人数                    | 学生別    | 0          | 0          | 10         | 10         | 12         | 32 |
| 【交流形態別 内訳】                 |        |            |            |            |            |            |    |
| ① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流      |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流      |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ④ 上記以外の交流期間30日未満の交流        |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流   |        | 0          | 0          | 10         | 10         | 12         | 32 |
|                            | 実渡航    |            |            | 10         | 10         | 12         | 32 |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流        |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |

(大学名： 筑波大学 ) (タイプ： A )

| 【外国人学生の受入】                 |        | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 | 2026<br>年度 | 2027<br>年度 | 合計 |
|----------------------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
| 年度別合計人数                    | 学生別    | 0          | 0          | 6          | 6          | 8          | 20 |
| 【交流形態別 内訳】                 |        |            |            |            |            |            |    |
| ① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流      |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流      |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ④ 上記以外の交流期間30日未満の交流        |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流   |        | 0          | 0          | 6          | 6          | 8          | 20 |
|                            | 実渡航    |            |            | 6          | 6          | 8          | 20 |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |
| ⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流        |        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0  |
|                            | 実渡航    |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | オンライン  |            |            |            |            |            | 0  |
|                            | ハイブリッド |            |            |            |            |            | 0  |

(大学名： 筑波大学 ) (タイプ： A )

## ⑬ 質の保証を伴った交流プログラムの実現について【1 ページ以内】

## (設定指標)

|                                    | 2023 年度 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 合計 |
|------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|----|
| (指標 1) 有給インターンシップ受入先機関             | 0       | 0       | 1       | 1       | 2       | 4  |
| (指標 2) 実渡航を伴う海外有給インターンシップ人数 (企業等)  | 0       | 0       | 2       | 2       | 4       | 8  |
| (指標 3) 実渡航を伴う海外無給インターンシップ人数 (研究室等) | 0       | 0       | 8       | 8       | 8       | 24 |
| (指標 4)                             |         |         |         |         |         |    |
| (指標 5)                             |         |         |         |         |         |    |

## 【計画内容】

コロンバス地域の企業を軸に、卒業後の進路に繋がるようなインターンシップを実施する。2025 年度から派遣を開始し、事業最終年度までには複数機関へと拡大する。インターンシップの実施を確実にするためには、オハイオ州立大学の支援も不可欠であり、協力関係を確かなものとするためにも互いに win-win となるように、日本でオハイオ州立大学生を受け入れる機関も同時並行して模索する。

インターンシップに参加する学生は、ISS-PBL で優秀な成績を修めたチームの学生が、チームのプロジェクトと別に自己研鑽を目的として手を挙げることを見込んでいる。有給インターンシップについては、上記受入機関へ学群生と大学院生を派遣する。無給インターンシップについては、オハイオ州立大学等の研究室へ大学院生を中心に派遣する。

## ⑭ ⑬以外の、学内・学外への事業の波及効果について【1 ページ以内】

## (設定指標)

|                      | 2023 年度 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 合計 |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|----|
| (指標 1) ビジネスコンテスト応募件数 | 0       | 0       | 2       | 3       | 4       | 9  |
| (指標 2)               |         |         |         |         |         |    |
| (指標 3)               |         |         |         |         |         |    |
| (指標 4)               |         |         |         |         |         |    |
| (指標 5)               |         |         |         |         |         |    |

## 【計画内容】

本学のアントレプレナー教育は、学群・大学院の授業科目、アントレプレナー養成実践型起業講座で起業家精神・リテラシー教育及び実践教育を実施している。この枠組を事業期間内から積極的に活用し、アントレプレナーシップの醸成から、特に ISS-PBL に参加する学生にはビジネスコンテストへの応募を推奨する。この教育を受けた学生が過去にも学生ベンチャーを生み出してきた実績もあり、本プログラムに参加した学生の集大成として、スタートアップ企業を設立し得るレベルに達することも期待される。

ビジネスコンテストは、取組相手の米国におけるコンテストの参加も含めて推奨する。日本国内外のコンテストに応募することで、入賞の有無に関わらず広く社会の目に触れることが可能となり、本事業の学内外への波及効果が見込まれる。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## ⑮ 加算事項に関する取組【2 ページ以内】

## 【実績・準備状況】

## ○日本人学生と外国人留学生在がチームを組み、アントレプレナーシップの醸成に資する実践的なプログラムを行う計画

本学では、「筑波クリエイティブ・キャンプ」という起業家育成プログラムを授業として開講している。入門編のベーシックと発展編のアドバンスの 2 科目で構成されており、学群生／大学院生、日本人学生／外国人留学生を問わず、広く学生を受け入れている。また、ハンズオン支援型の実践的教育プログラムを用いて、事業化に成功するアントレプレナーの輩出と研究・技術シーズに基づくスタートアップ創出を促進することを目的とした「つくばアントレプレナー育成プログラム BizDev 講座」も用意されており、アントレプレナーシップの醸成に資するプログラムが充実している。

他方、本学は「国際性の日常化」を掲げており、日本人学生と外国人留学生在が共に学修している。例えば、2021 年度に採択された本学の世界展開力強化事業である「CAMPUS-Asia6」では、筑波大学生と教育研修留学生在が合同で太子町の小学校でフィールドワークを行う等、教育政策を基軸に交流している。

このように、日本人学生と外国人留学生在の学び合い、アントレプレナーシップ教育、それぞれの取り組みは筑波大学においても十分な実績があるものの、それらを掛け合わせたプログラムは表立って見受けられない。今回の申請が新しい流れを生む好機になると考えている。

下記【計画内容】を実現するにあたっては、①本学の国際産学連携本部にアドバイスを仰ぐ、②オハイオ州立大学とも関係が深い Honda America 等の企業に協力を打診する、③つくば市とコロンバス市に協力を打診する（つくば市はすでに連携できる方向で調整中）、④インターンシップにおいて win-win の関係を構築できるように日本側の受入機関を模索する、といった準備をすでに進めている。

## ○カーボンニュートラルや SDGs、防災・減災といった世界的課題解決に向け、外国人留学生と日本人学生が主体となり、地域・社会・企業と連携する計画

本学には、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢をもち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を育成する英語プログラム「地球規模課題学位プログラム（学士）」がある。当該プログラムのカリキュラムには、地球規模課題に直面しているフィールドでの環境やステークホルダーに関する調査を行うほか、4 年間学んだことの集大成として卒業研究またはインターンシップをする等、社会との連携の中で学修する。

また、2022 年度には教員の指導の下、建築設計を専攻する筑波大学生とウクライナからの留学生在が、かすみがうら市で増加する空き家の再生策を探るモデル事業に取り組んだ。

本プログラムは、スマートソサエティーの実現という世界的課題解決をテーマにしており、とりわけフィールドとしての地域社会との連携を重視している。つくば市スーパーシティ構想に関わっている教員からアドバイスを仰ぐ等、計画の実現に向けて動いている。

## ○国際共同研究や共同学位等の土台となるような、通常の大学間交流を超える総合的・互恵的な関係性を持つ海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップを構築する計画

2011 年度に採択された本学の世界展開力強化事業「人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム」は、ドイツ、スロベニア、フランス、韓国等の国々と連携した日欧韓協働教育プログラムである。このうち「日独韓共同学位（デュアルディグリー）プログラム」は 2023 年度も独立して事業を継続しており、毎年 10 名程度の日独韓の学生が入学するプログラムとして定着した。

本プログラムにおいては、すでに両大学で研究分野が近い教員同士がパートナーとして様々なアイデアを交換しており、学生への質の高い教育を提供しながら、新しい研究のシーズが芽吹くことが期待される。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

**○交流する相互の学生が、真の両国間の懸け橋となる人材を目指し、双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画**

先述した日独韓共同学位（デュアルディグリー）プログラムでは、目指すべき学生像として、「アジアをよく知るヨーロッパ・スペシャリストであり、またヨーロッパを知悉するアジア専門家」を掲げている。具体的に、学生は日独間の 3 大学を一学期ごとに渡り歩き、地域研究や専門外国語のカリキュラムを通じて、真の 3 ヶ国間の懸け橋となる人材を目指す。

本プログラムは、学位を授けるものではなく、また基本的に英語を使用するものであるが、チームを組む筑波大学生とオハイオ州立大学生がシャトル交流を行えるよう、予算編成も含めて、交流プログラム内容を構築している。

**【計画内容】**

**○日本人学生と外国人留学生在がチームを組み、アントレプレナーシップの醸成に資する実践的なプログラムを行う計画**

本プログラムの一つである ISS-PBL は、筑波大学生とオハイオ州立大学生がチームを組み、自治体や企業等から出された課題に対して解決案を導き、最終的に関係自治体や企業等からの評価を受けるといふ、アントレプレナーシップの醸成に資する実践的な授業を行う計画である。また、これに続く、ISS 派遣プログラムでは ISS-PBL で優秀な成績を修めたチームがコロンバス／つくばで実地交流し、アイデアの社会実装に向けて取り組むことを計画している。

**○カーボンニュートラルや SDGs、防災・減災といった世界的課題解決に向け、外国人留學生と日本人学生が主体となり、地域・社会・企業と連携する計画**

本プログラムは、Society 5.0 に代表されるスマートシティ構想を敷衍し、米国における先進的な考えを加え、革新的なテクノロジーをもとに、多様な背景を持った人々が等しく主役になれる社会「インクルーシブなスマートソサエティー」をテーマに据えている。

当該テーマを基軸に、地域社会（つくば市等）と連携したプログラムを展開する計画となっている。例えば、ISS サマーフェスティバルは、学生が主体となって運営し、「インクルージョン」に関する理解を深めつつ、広く社会へ情報発信を行う機会を計画している。

**○国際共同研究や共同学位等の土台となるような、通常の大学間交流を超える総合的・互恵的な関係性を持つ海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップを構築する計画**

本プログラムは学生間の密な交流をもたらすと同時に、ISS 基盤講義における共同教育体制を構築すること等をきっかけとした研究者間の強固なパートナーシップを構築するものとなる。とりわけ、体育学及び障害科学においては、本学が設置検討している「Sport Complex for Tomorrow」（仮称）におけるオハイオ州立大学との総合的な大学間交流が期待される。また、オハイオ州立大学が強みを持つ宇宙工学分野においても今回のプログラムが、2023 年 3 月に設置された「トランスフォーメーションコネクト機構」との将来的な協力関係の素地となりうる。

**○交流する相互の学生が、真の両国間の懸け橋となる人材を目指し、双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画**

先述したとおり、ISS-PBL から ISS 派遣プログラムにかけて、長期にわたり筑波大学生とオハイオ州立大学生がチームを組んで学修活動を行う。とりわけ、ISS 派遣プログラムまで参加する学生は、少なくとも 1 年目秋～2 年目夏まで共にすることから、密な交流となって信頼関係を築き、両国間の懸け橋となる人材になると考える。言語については、本プログラムが「国際ソーシャルスタートアップ人材」の養成を掲げているため、英語を軸にしなければならないが、オハイオ州立大学から学生を受け入れる際には、つくば市での活動を通じて日本文化を体得する計画である。

## 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備【①～③合わせて3ページ以内】

## ① 日本人学生の派遣のための環境整備

## 【実績・準備状況】

## ○筑波大学における支援体制

本学では、海外派遣・受入の増加に伴って更なる支援体制を強化するため、2021年4月に組織再編によりスチューデントサポートセンターを設置し、日本人学生、外国人学生等を区別することなく、国際交流に関するワンストップサービスを提供している。

スチューデントサポートセンターでは、海外へ渡航する学生に向け、海外交流プログラムやイベントに関する情報、海外安全危機管理等の情報を集約して公開しているほか、海外経験を有する学生スタッフが対応する留学相談デスク、留学経験のある大学院生が英文書類作成サポートを行うライティング・ヘルプデスクなどを提供している。また、筑波大生のための海外留学情報誌として『Go Abroad!』を作成し、積極的に情報収集を行うよう促している。

## ○日本人学生の危機管理

学内の情報共有及び危機管理体制の強化を目的として、海外へ渡航する学生には「海外渡航システム（TRIP）」の入力を義務付け、緊急時の安否確認等の必要措置をよりスムーズに講じる体制が確立している。さらに、海外旅行傷害保険の加入義務付け、万が一の事件・事故等が発生した場合のサポートサービスである海外安全危機管理サービス（OSSMA）への加入も強く推奨している。これらを通じ、派遣中の学生の安否確認情報と外務省等から得られる海外安全情報、緊急アラート情報をリアルタイムで比較できるシステムを確立、安全管理体制を整備している。海外渡航が活発となる長期休業前も含め、海外安全、危機管理に関する教育啓蒙活動を毎年定期的実施し、派遣中においては、本学の海外拠点や派遣先の協定校担当者を通じた現地サポートを実施している。

## ○履修支援

単位認定の手続に関して、スチューデントサポートセンター及び各エリア支援室において情報提供を行っている。Campus in Campus 学生交流パートナー校については、科目ジュークボックスにおいて履修可能な科目を掲載しており、留学前に履修計画が立てやすい環境を整備している。

## ○キャリア支援

授業科目として国外インターンシップを導入しており、日本人学生が指導教員の支援を受けながらインターンシップに参加できる仕組みが整えられている。

## 【計画内容】

## ○筑波大学の支援体制

従来の体制に加えて、本プログラム専任のコーディネーターを配置することにより、一層充実した支援を行う体制を構築する。

## ○派遣前～派遣中～派遣後

本教育プログラムでは派遣前に長期のグループ学習を行うことにより、プログラムに参加することの意義、参加する学生各々の学修目標を意識づけることが可能である。派遣中には、筑波大学とオハイオ州立大学の教職員が連携して学生をサポートすることで、派遣学生が安心してプログラムに専念できるように取り組む。派遣中に現地企業等と交流することにより、海外で就職する機運を高める。派遣後には、TGSW等において学生主体の成果発表会を開催して自身の学修を振り返る。

## ② 外国人学生の受入のための環境整備

## 【実績・準備状況】

## ○筑波大学における支援体制

本学では、スチューデントサポートセンターを設置し、日本人学生、外国人学生等を区別することなく、国際交流に関するワンストップサービスを提供している。

スチューデントサポートセンターでは、本学への留学を希望する外国人学生に向け、学生種別の一般的な情報から入学後の生活全般に必要な情報を取りまとめ、「外国人留学生のための筑波大学入学案内」として、Web サイトで公表している。そのほか、経済支援や相談体制等についても Web サイトに掲載しているが、英語や中国語等 8 ヶ国語に翻訳可能であり、外国人学生が容易に欲しい情報へアクセスすることができる。また、学生宿舎への留学生の優先的な入居や、留学生と日本人学生のシェアハウス型の学生宿舎「グローバルヴィレッジ」の整備、短期留学・ショートステイ宿舎を運用し、日本人学生と留学生との交流の促進及び留学生の受入数拡大に対応し得る環境を整えている。

入学前の支援として、e ラーニングによる日本語学習機会の提供、在留資格認定証明書の代理申請や、来日後の宿舎入居手続や銀行口座開設等のサポート、留学生チューターによる学生生活を含む新生活立ち上げ全般に関するサポート、指導教員による修学全般のサポートなどを提供し、長期的な適応促進に努めている。

## ○在籍管理

渡日から修了・卒業までを各事務組織等が連携し、厳格な在籍管理を実施し、緊急時には常時対応できる体制を整備している。

## ○キャリア支援

ヒューマンエンパワーメント推進局による外国人留学生を含めたインターンシップの機会提供や、企業による就職ガイダンス・説明会、起業セミナーを開催し、日本での就職活動をサポートするとともに、帰国学生に対しては、海外拠点と連携した支援を行っている。

## 【計画内容】

## ○筑波大学の支援体制

従来の体制に加えて、本プログラムの事務局を設け専任のコーディネーターを配置することにより、一層充実した支援を行う体制を構築する。

## ○在籍管理

本プログラムにおいて本学が受け入れるオハイオ州立大学の学生は、「短期研修生」として適切な在籍管理のもとでプログラムに参加する。参加が決定した学生には、渡日前の説明により参加上の注意を理解してもらうと共に、渡日から筑波大学での学修、帰国までの流れ、日本での生活、諸手続き、注意事項のガイダンスを行う。

## ○生活支援

渡日後は空港から大学キャンパス内への移動、学生宿舎への入居手続等の生活全般の支援を行うほか、必要に応じ日本人あるいはネイティブレベルの日本語運用能力を有する外国人学生をチューターとして配置し、キャンパス内での学修、生活のサポートを行う。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## ③ 関係大学間の連絡体制の整備

## 【実績・準備状況】

オハイオ州立大学とは、キャンパス機能を共有し国境や機関の壁を越えたトランスボーダーな教育研究交流を実現する Campus-in-Campus 協定を締結しており、国際局を中心にすでに連絡体制が整っている。また、プログラムにかかわる教員同士で独自のチャンネルを有しており、すでに機動的に情報交換できる状態となっている。

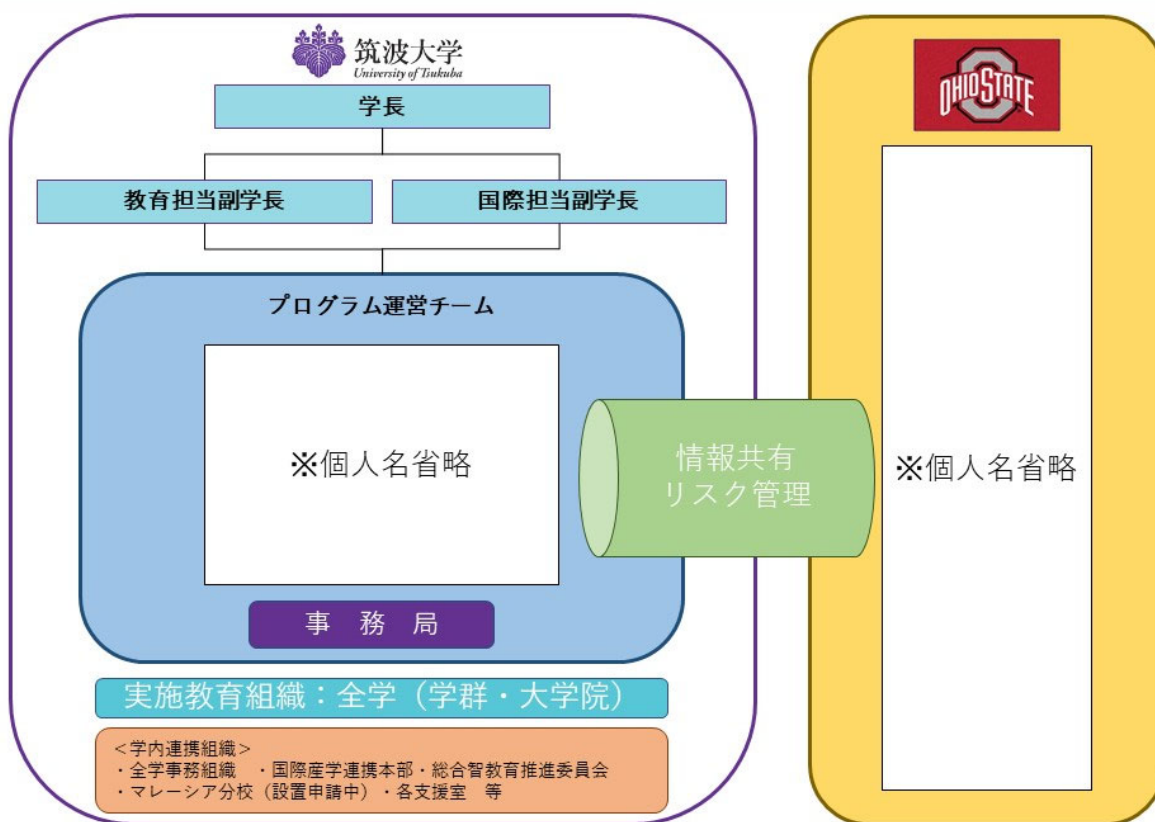
海外滞在中の安全対策・危機管理システムとして OSSMA への加入のほか、相手大学の教職員と連絡・情報共有ができる体制を組み、災害やテロ等での支援が受けられる体制を構築している。現在すでに帰国留学生の同窓会構築と卒業生同士や大学との情報交換を容易にするために卒業生対象の SNS T-Net (Tsukuba Alumni Network) を整備し、国・地域別、プログラム別の留学生コミュニティ形成に供しているが、2023 年度中には、世界中の卒業生・修了生によるネットワークを発足させ、同窓会等、各種の組織やステークホルダーに情報を一元的に発信し、情報を収集できる体制を構築していく予定である。

## 【計画内容】

以下に示す図のとおり、筑波大学とオハイオ州立大学との情報共有やリスク管理は、関係する教員を中心としたプログラム運営チームと設置される事務局が主体となり、オハイオ州立大学側の担当教員等と協力して行う。TRIP や OSSMA によるサービスから得られる派遣中の学生の安否確認情報と海外安全情報、緊急情報をリアルタイムで比較するシステムの情報を共有し、平常時のサポートと緊急時の迅速な対応体制を整備する。

プログラムに参加した学生には、Tsukuba Global Science Week 等で学生主体の成果発表会を実施させることにより、後輩へ情報伝達しながら、自発的に同窓会組織を形成することを促す。

## 交流プログラムの運営（連絡）体制



(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及【①、②合わせて2ページ以内】

## ① 事業の実施に伴う大学の国際化

## 【実績・準備状況】

## ○国際性のある事務体制

筑波大学では、日本人学生と留学生が日常的に国際交流する場である「スチューデント・コモンズ」を中心に、学生の国際交流活動、留学希望者への相談及び情報提供等の支援を行っている。また、2021年4月にはスチューデントサポートセンターを新たに設置し、学生支援、学生相談及び国際交流に係る支援の窓口を一元化する体制を強化した。さらに、全ての支援室にエリア・コモンズ（教育・研究のグローバル化を担当する事務職員）を配置し、部局のグローバル化の支援を行っている。2020年度には全学事務組織に翻訳支援ツールを導入し、文書の日英二言語化のさらなる促進を図った。

## ○Campus-in-Campus 構想の推進

Campus-in-Campus (CiC) 構想は、海外のパートナー大学との間でキャンパス機能を共有し、国境や機関の壁を越えたトランスボーダーな教育研究交流を実現する取組で、2023年5月現在10校の海外大学と協定を締結している。本教育プログラムで連携するオハイオ州立大学とも CiC 協定を締結しているが、今回の事業を契機に更なる連携強化を図るよう調整している。

## ○JV-Campus の開発と整備

大学の国際化促進フォーラムのプロジェクトとして、オンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus (JV-Campus)」の開発・統括を担っており、2021年3月10日にパイロット事業を開始した。

## 【JV-Campus 利用状況（2023年5月時点）】

留学生応援特別ボックス：参加表明校 69 校、個別機関 Box：登録 56 機関

## 【計画内容】

## ○筑波大学の国際化戦略に対する本プログラムの意義

筑波大学は第四期中期計画において、「本学または海外大学の単位取得を伴う海外留学（武者修行プログラム等）を行う学生を令和9（2027）年度末までに2,000人／年にする（オンラインによる履修を含む）」ことを掲げている。本プログラムは、COIL/VE や JV-Campus を活用したオンライン履修を含み、実渡航も交えて年間平均 680 人程度の日本人学生が海外交流を見込んでいることから、大学の国際化戦略達成の契機として意義深いものとなる。

14 日本人学生の英語コミュニケーション力、外国人学生の日本語によるコミュニケーション力を向上させ、学術的な専門力と汎用力を鍛え、特色を生かした多様な短期・長期の教育プログラムによって国内外のアカデミア、産業界等、多様な社会で活躍できる人材を養成する。【指定国構想】

|      |                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | <p>21 本学または海外大学の単位取得を伴う海外留学（武者修行プログラム等）を行う学生を令和9年度（2027年度）末までに2,000人／年にする（オンラインによる履修を含む）。（再掲）</p> <p>23 外国人留学生（正規生）における日本語教育科目受講者の割合を令和9年度（2027年度）末までに25%にする（単位修得の有無に関わらない。また、オンラインによる履修を含む）。</p> |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## ○プログラム事務局の設置

本プログラムに事務局を設置し、語学力に優れた専任の職員を配置する。事業開始と合わせて、専任コーディネーターに相当する人材を登用することにより、プログラム全体のブラッシュアップ及びオハイオ州立大学との連携を強化する。他方、学内部局とも協力し、既存業務を抱える特定の職員に業務が偏ることのないように配慮する。

## ○JV-Campus へのコンテンツ提供

オハイオ州立大学と共同で本プログラムに係るコンテンツを作成し提供することにより、他大学の学生も本プログラムの一端に触れられるような仕組みを構築する。

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

## ② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

## ○過去の世界展開力強化事業に関する情報発信

前提として、本学の教育研究活動、国際交流活動の取組は、本学の Web サイトや公式 SNS 等も活用し、国内外のステークホルダーに向け、日本語及び英語で情報発信を行っている。

2021 年度に採択された本学の「CAMPUS-Asia6」プログラムについては、専用の Web サイトを設け積極的に情報発信を行っており、事業関係国の人々でもアクセスしやすいよう、マレー語やタイ語等 6 ヶ国語に翻訳できるようになっている。Web サイトでは、各年度の活動報告や学生・教員の声を掲載しており、具体的な実施状況を公開している。



## OTsukuba Global Science Week (TGSW)における学外関係者への情報発信

筑波大学では、多岐にわたる学術分野の最先端の研究成果を共有し、より良い未来を実現するための方策を議論する場として、Tsukuba Global Science Week (TGSW)を開催している。TGSWでは、学生主体のセッションも毎年開催されており、例えば本学学生と国立台湾大学（Campus-in-Campus パートナー）の学生がSDGsをテーマに議論を行った。



なお、中央教育審議会ワーキンググループが掲げる公表が望まれる項目については、年次報告書を中心に公表している。

【計画内容】

## ○日常的な情報発信

本プログラムの情報発信にあたっては、専用の Web サイトを立ち上げ、プログラム概要や活動報告、参加した学生等の声を掲載することにより、プログラムへの参加を検討している学生が適切に判断できるようにする。また、本学の広報局とも連携し、SNS 等も活用して積極的な情報発信を展開することで、学内外へプログラムの成果を広く普及させる。

## OTGSW 等の成果発表会による情報発信

筑波研究学園都市にある本学の優位性を十二分に生かした成果発表の場として、TGSW 等での学生企画セッションの企画・実施も本プログラムの計画の一部としているが、当該イベントは国内外から多数の研究者・学生が集うものであり、本プログラムの成果を日本のみならず、海外にも広く発信し、普及させることが可能であると考える。

## 交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

|               |               |
|---------------|---------------|
| 相手大学名<br>(国名) | オハイオ州立大学 (米国) |
|---------------|---------------|

## ① 交流実績 (交流の背景)

本学は25年以上前からオハイオ州立大学と国際交流協定を結んでおり、各分野において教育研究に係る活発な交流を続けてきた。以下にその一例を示す。

(防災) 2020年より「災害から学ぶ：巨大災害が社会基盤施設、工学や社会システム全般に及ぼす影響」として、オハイオ州立大学と協働でCOIL型授業を開講している。両大学の学生が参加し、小グループで課題をこなして発表するPBL型の授業で、時差の関係から授業時間外のグループ討論も必須となることから、学生同士で調整しながら課題に取り組んでいる。

(体育) CiC協定締結以前より、毎年夏に開催しているTsukuba Summer Instituteにオハイオ州立大学の学生が参加するなど、10年以上上部局単位でも活発な交流を続けている。

(障害科学) 2019年にオハイオ州立大学の教員が来日した際に本学の大学院生5名が指導を受け、また本学教員と学生が現地で10日間の研修を実施したほか、2020年には、TGSWにおいてジョイントセッションを共同開催した。2023年3月、本学にて教員1名をサバティカルで受け入れた。

(人文社会科学) 2019年2月にOSU-Tsukuba Workshop in Linguisticsとして本学の学生・教員が現地でワークショップに参加したほか、日本ポピュラーカルチャー研修として、2019年にオハイオ州立大学の学生を受け入れて研修を提供してきた。

(人工知能科学) 本学は、トランスフォーメーションコネクタ機構デジタル分野を学内に設置し、オハイオ州立大学と協力して日米デジタルイノベーションハブ事業の幹事校事務局を担っている。本事業では日本側8大学、米国側15大学で「日米デジタルハブワークショップ」を定期的に開催し、デジタルと先端技術分野での日米の政府レベルとグラスルーツ両面からの両国の産官学の研究開発連携促進を支援している。また、現在本学の海外教育研究ユニット招致事業として、オハイオ州立大学のTDAI (Translational Data Analytics Institute) と文理融合型の研究グループによる「人間中心AI」(Human-centered AI)の研究拠点形成と国際ネットワーク構築を進めている。

| 2017年度 |    |     |    | 2018年度 |    |     |    | 2019年度 |    |     |    | 2022年度 |    |     |    |
|--------|----|-----|----|--------|----|-----|----|--------|----|-----|----|--------|----|-----|----|
| 受入     |    | 派遣  |    | 受入     |    | 派遣  |    | 受入     |    | 派遣  |    | 受入     |    | 派遣  |    |
| 教職員    | 学生 | 教職員 | 学生 | 教職員    | 学生 | 教職員 | 学生 | 教職員    | 学生 | 教職員 | 学生 | 教職員    | 学生 | 教職員 | 学生 |
| 8      | 9  | 25  | 5  | 16     | 0  | 20  | 19 | 10     | 13 | 30  | 14 | 1      | 0  | 15  | 3  |

## ② 交流に向けた準備状況

本事業の実施にあたり、2022年11月に本学学長、国際担当副学長を始めとするチームでオハイオ州立大学を訪問して意見交換を実施、双方が積極的に協力し、本事業に取り組む方針が確認された。さらに、2023年3月にも本学国際担当副学長が再度訪問し取組方針を再確認し、4月に先方のVice Provostが来日した際にも打合せを行った。

公募要領の公表後、オハイオ州立大学の教職員と本学教職員とで、本プログラムの概要の確認、協力方策についてオンラインで打合せを実施し、交流プログラムの内容のブラッシュアップを図ってきた。全学レベルでの打合せのほか、交流実績にもあるように各分野の教員同士でも継続して情報交換を実施しており、本プログラムの実施に向けた体制構築に努めている。

また、本学とつくば市は、2019年に設立した“つくばスマートシティ協議会”等において密な協力体制を築いているが、定期的な国際担当者同士の意見交換会の際に、本プログラム実施の際の協力についても了承を得ている。

※WEB会議イメージ

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

| 事業計画の実現性、事業の発展性【①は1 ページ以内、②～④は合わせて3 ページ以内】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 年度別実施計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 【2023 年度（申請時の準備状況も記載）】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>○準備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育推進課教務グループ（総合科目設置担当事務）、国際産学連携本部、つくばスーパーシティ構想関係教員との意見交換</li> <li>・筑波大学教職員とオハイオ州立大学教職員による複数回のオンライン打合せ</li> </ul> <p>○実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波大学教員と学生がオハイオ州立大学を訪問し、プログラム内容をブラッシュアップ（FD）</li> <li>・本プログラム実施体制（事務局）の確立（専任コーディネーターの採用等）</li> <li>・本プログラムの Web サイトの立ち上げ</li> <li>・「ISS 基盤講義」及び「ISS-PBL」の総合科目設置申請</li> <li>・シラバスの作成及びシラバスのオハイオ州立大学との共有</li> <li>・オンライン交流プラットフォーム構築に係るシステム導入</li> <li>・アントレプレナーシップ教育に関するルーブリックの作成</li> <li>・インターンシップ実施に向けた入国管理局、協力企業、協力自治体等との協議</li> </ul> |
| 【2024 年度】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季に「ISS サマーフェスティバル」を開催</li> <li>・秋学期に総合科目「ISS 基盤講義」と「ISS-PBL」を新規開講</li> <li>・ISS-PBL の受講者についてルーブリックを用いて評価し、適切に評価できるか検証</li> <li>・筑波大学教員と学生がオハイオ州立大学を訪問し、プログラム内容をブラッシュアップ（FD）</li> <li>・筑波大学プログラム運営チームによる定期評価</li> <li>・オハイオ州立大学生の受入</li> <li>・2025 年度以降に実施するインターンシップ先の確保</li> <li>・JV-Campus のコンテンツ内容について検討</li> </ul>                                                                                                                                                                                                     |
| 【2025 年度】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季に「ISS サマーフェスティバル」を開催</li> <li>・前年度 ISS-PBL 優秀チームをコロンバスへ派遣</li> <li>・オハイオ州立大学生の受入</li> <li>・秋学期に ISS 基盤講義と ISS-PBL を開講</li> <li>・インターンシップの実施開始</li> <li>・本プログラムの一部コンテンツを JV-Campus を通じて公開開始</li> <li>・筑波大学プログラム運営チームによる定期評価と中間評価のための FD</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【2026 年度】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価に基づいて、プログラム内容の練り直し</li> <li>・夏季に「ISS サマーフェスティバル」を開催</li> <li>・前年度 ISS-PBL 優秀チームをコロンバスへ派遣</li> <li>・オハイオ州立大学生の受入</li> <li>・秋学期に ISS 基盤講義と ISS-PBL を開講</li> <li>・インターンシップの実施及び受入機関の拡大</li> <li>・筑波大学プログラム運営チームによる定期評価と補助期間終了後の検討</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 【2027 年度】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季に「ISS サマーフェスティバル」を開催</li> <li>・前年度 ISS-PBL 優秀チームをコロンバスへ派遣</li> <li>・オハイオ州立大学生の受入</li> <li>・秋学期に ISS 基盤講義と ISS-PBL を開講</li> <li>・インターンシップの実施</li> <li>・5 年間の事業総括と補助期間終了後の検討</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

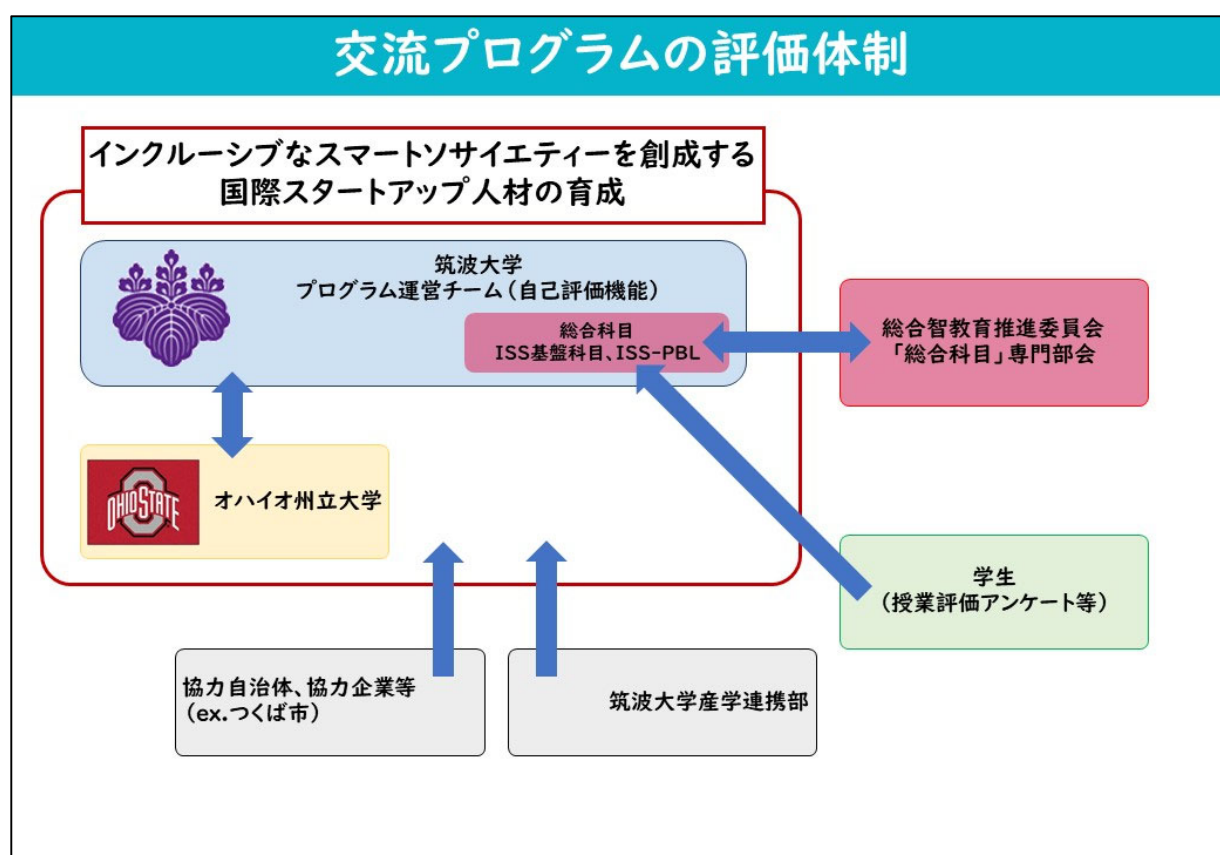
（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

## ② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

年に一度、本プログラムの実施計画、実施状況、目標達成状況、各種ステークホルダーの声等について、筑波大学のプログラム運営チームにおいて評価を行う。評価に際しては、オハイオ州立大学の教員／職員とも連携する。

プログラムのうち、総合科目として設置する予定の ISS 基盤講義及び ISS-PBL については、筑波大学の総合智教育推進委員会及び、直下の「総合科目」専門部会においても管理される。また、筑波大学ではすべての授業で学生による授業評価アンケートを実施しており、当該アンケートをプログラム運営チーム内で検証することにより、授業内容の改善を図る。

プログラム全体について、つくば市といった協力自治体、協力企業等に適宜意見を聴取する。また、筑波大学産学連携部からは、とりわけアントレプレナーシップ教育関係について、適宜アドバイス等を得る。加えて、総合科目以外に関する学生の声もアンケート等を駆使して収集する。これらの情報は、年に一度の評価で各種ステークホルダーの声として綿密に検証することで、本プログラム全体の質向上を図る。



## ③ 補助期間終了後の事業展開

## ○本事業モデルの横展開

本学は、第4期中期計画において、「海外派遣を必修とする教育プログラムを拡大するとともに、学生の海外派遣支援事業を拡大する」ことを掲げ、単位取得を伴う海外留学を行う学生を2027年度末までにオンラインを含めて年間2,000人とすることを目指している。本プログラムはCiC協定のもとにオハイオ州立大学との間で実施を計画するものであるが、本学の第4期中期計画の達成に貢献し得るものとして、事業モデルを他の協定校にも拡大し、より多くの学生が国際交流プログラムに参加できる体制を整えることを目指す。

また、本学学生の海外留学と合わせ、第4期中期計画においては優秀な留学生の獲得を掲げ、2027年度末までに短期留学やオンライン等も含めて年間4,500人とすることを目指しており、外国語で受講可能な科目のさらなる増加も必須となる。事業モデルを横展開することにより、ISS基盤科目と同様に各国の事情をオムニバス形式で学ぶ科目の増加も期待される。

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

### ○国際スタートアップ人材の輩出

本学の国際産学連携本部で実績を有するアントレプレナー教育の枠組を事業期間内から積極的に活用し、アントレプレナーシップの醸成から、特に ISS-PBL に参加する学生にはビジネスコンペティションへの積極的な参加を推奨する。本枠組における教育の一環では、学生のビジネス着想に関する発表の場において、ベンチャーキャピタル（VC）から評価を受ける機会も設定され、高い評価を得たプランには、投資を得ることができる可能性もある。学生ベンチャーを生み出してきた実績もあり、本プログラムに参加した学生の集大成として、スタートアップ企業を設立し得るレベルに達することを目指す。また、こうして設立された学生ベンチャーを含む筑波大学発ベンチャーは、本プログラムに参加する学生のインターンシップ先として活用することも目指す。なお、今回のプログラムで欧州委員会の“EntreComp”を援用することを皮切りに、国際通用性のあるアントレプレナーシップ教育を構築したい。

### ④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

#### ○海外派遣支援事業の拡大（はばたけ！筑大生）

本学学生の海外留学・短期研修等のための給付型支援として本学が独自に実施する事業であり、海外渡航を目指す学生への経済支援を実施している。全学での支給対象学生は年間数百人規模に及ぶ。本プログラムの予算内で実渡航を伴うプログラムに参加する学生への支援は限られたものとなることから、事業期間内から学内競争的資金への応募を推奨し、より多くの学生が海外渡航の機会を得られることを目指す。前③項にも挙げたとおり、本学が第4期中期計画において目指す中において、海外派遣支援事業の拡大も期待される。これにより、限られた一部の学生だけでなく、より多くの学生が実渡航を目指すことが期待される。

#### ○外部資金等の獲得

上述の学内競争的資金のほか、JASSO の海外留学支援制度等も積極的に活用し、経済支援の継続に努める。

また、本プログラムでは事業期間内から民間企業等と連携したコンペティション形式の PBL を実施し、優秀な評価を得たチームには、実渡航の旅費を支援することも計画している。学生は企業等が抱える課題について海外相手大学の学生と協働して課題解決提案を行い、それに対し企業等の関係者から評価を得る。将来的には協力企業から学生の旅費支援獲得も目指す。

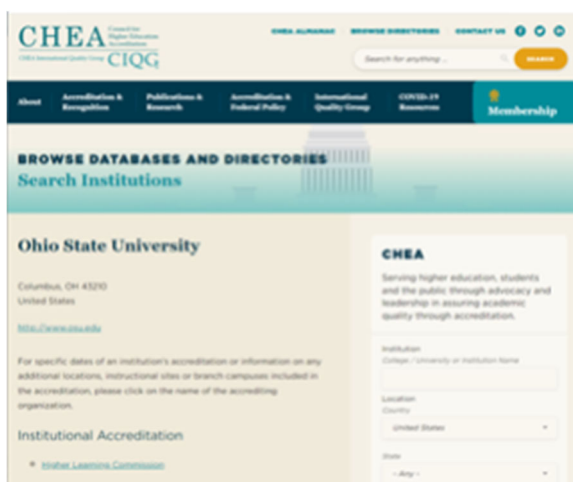
## 海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

## ① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |        |           |        |       |        |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------|--------|-------|--------|
| 大学名称         | (日) オハイオ州立大学<br>(英) Ohio State University                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 国名     | 米国        |        |       |        |
| 設置形態         | 州立大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 設置年    | 1870 年    |        |       |        |
| 設置者（学長等）     | President, Kristina M. Johnson, Ph.D                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |        |           |        |       |        |
| 学部等の構成       | College of Arts and Sciences, Max M. Fisher College of Business, College of Dentistry, College of Education and Human Ecology, College of Engineering, College of Food, Agricultural, and Environmental Sciences, John Glenn College of Public Affairs, Michael E. Moritz College of Law, College of Medicine, College of Nursing, College of Optometry, College of Pharmacy, College of Public Health, College of Social Work, College of Veterinary Medicine |        |           |        |       |        |
| 学生数          | 総数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 65,795 | 学部生数      | 51,377 | 大学院生数 | 11,199 |
| 受け入れている留学生数  | 5,596                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |        | 日本からの留学生数 |        |       |        |
| 海外への派遣学生数    | 1,056                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |        | 日本への派遣学生数 |        |       |        |
| Web サイト（URL） | https://www.osu.edu/                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |        |           |        |       |        |

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。  
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

米国では高等教育の質の基準を一元的に管理する全国規模の組織が連邦政府機関を含めて存在せず、“triad”と呼ばれる連邦政府・州政府・ア krediteーション（評価）機関の3者が高等教育機関の質保証を担っている。ア krediteーション機関が高等教育機関や教育プログラムの質の保証・改善を目的とした第三者評価を行う傍ら、連邦政府はア krediteーション機関を認定する外部審査を通じて連邦奨学金等の支給対象となる高等教育機関の質を保証し、州政府は教育機関の設置や運営の認可に際した審査等によって質保証に関与している。なお、ア krediteーション機関の認定は連邦政府（教育省）と米国高等教育ア krediteーション協議会（Council for Higher Education Accreditation: CHEA）が実施しており、OSU は CHEA に認定された Higher Learning Commission によって認証された。



（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入。④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

| 大学等名                                                                                                                                                                                 |                              | 筑波大学           |                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|----------------|-----------------|
| ① 大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019 年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の 2019 年度の留学生受入人数                                                                                                               |                              |                |                 |
| ※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。<br>※「2019 年度受入人数」は、2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。<br>※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2019 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。 |                              |                |                 |
| 順位                                                                                                                                                                                   | 出身国（地域）                      | 受入総数           | 2019 年度<br>受入人数 |
| 1                                                                                                                                                                                    | 中国                           | 1,200          | 1,552           |
| 2                                                                                                                                                                                    | 韓国                           | 153            | 176             |
| 3                                                                                                                                                                                    | 台湾                           | 105            | 152             |
| 4                                                                                                                                                                                    | ベトナム                         | 85             | 104             |
| 5                                                                                                                                                                                    | インドネシア                       | 83             | 108             |
| 6                                                                                                                                                                                    | 米国                           | 47             | 61              |
| 7                                                                                                                                                                                    | フランス                         | 44             | 80              |
| 8                                                                                                                                                                                    | インド                          | 35             | 38              |
| 9                                                                                                                                                                                    | マレーシア                        | 33             | 44              |
| 10                                                                                                                                                                                   | ブラジル                         | 32             | 41              |
| その他<br>(上記 10 カ国以外)                                                                                                                                                                  | (主な国名) タイ、バングラデシュ、ドイツ、モンゴルなど | 555            | 743             |
| 留学生の受入人数の合計                                                                                                                                                                          |                              | 2,372          | 3,099           |
| 全学生数                                                                                                                                                                                 |                              | 16,534         |                 |
| 留学生比率                                                                                                                                                                                |                              | 14.3%          |                 |
| ② 2019 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数                                                                                                                                                     |                              |                |                 |
| ※教育又は研究等を目的として、2019 年度中（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。<br>なお、2019 年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。                                 |                              |                |                 |
| 順位                                                                                                                                                                                   | 派遣先大学の所在国（地域）                | 派遣先大学名         | 2019 年度<br>派遣人数 |
| 1                                                                                                                                                                                    | 台湾                           | 国立台湾大学         | 56              |
| 2                                                                                                                                                                                    | 台湾                           | 国立成功大学         | 42              |
| 3                                                                                                                                                                                    | 中国                           | 中国地質大学         | 26              |
| 4                                                                                                                                                                                    | マレーシア                        | マレーシア工科大学      | 20              |
| 5                                                                                                                                                                                    | カナダ                          | プリンス・エドワード島大学  | 20              |
| 6                                                                                                                                                                                    | フランス                         | ボルドー大学         | 19              |
| 7                                                                                                                                                                                    | モロッコ                         | ハッサンⅡ世農獣医大学    | 18              |
| 8                                                                                                                                                                                    | カナダ                          | トロント大学         | 17              |
| 9                                                                                                                                                                                    | ベトナム                         | ホーチミン市医科歯科大学   | 17              |
| 10                                                                                                                                                                                   | 米国                           | サンディエゴ州立大学     | 16              |
| その他<br>(上記 10 カ国以外)                                                                                                                                                                  | (主な国名) タイ                    | (主な大学名) コンケン大学 | 576             |
|                                                                                                                                                                                      | 計 54 カ国                      | 計 236 校        |                 |
| 派遣先大学合計校数                                                                                                                                                                            |                              | 246            |                 |
| 派遣人数の合計                                                                                                                                                                              |                              |                |                 |
|                                                                                                                                                                                      |                              |                | 827             |

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

| 大学等名                                                                                                                        | 筑波大学   |     |    |    |    |     |          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----|----|----|----|-----|----------|
| ③ 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）（2023 年 5 月 1 日現在）                                                                                 |        |     |    |    |    |     |          |
| ※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。<br>※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。<br>（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。） |        |     |    |    |    |     |          |
| 全教員数                                                                                                                        | 外国人教員数 |     |    |    |    |     | 外国人教員の比率 |
|                                                                                                                             | 教授     | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 合計  |          |
| 3112                                                                                                                        | 82     | 56  | 51 | 77 | 0  | 266 | 8.5%     |
| うち専任教員<br>（本務者）数                                                                                                            | 15     | 48  | 1  | 77 | 0  | 141 |          |

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 大学等名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 筑波大学 |
| ④ 取組の実績【4 ページ以内】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| <p><b>1. 国際的な教育環境の構築</b></p> <p><b>【外国語による授業の実施】</b></p> <p>本学では、2009 年に「国際化拠点整備事業(G30)」に採択されて以降、「世界との共生」と「国際性の日常化」をスローガンに英語プログラムを整備し、留学生の受入を大幅に拡大してきた。外国語のみで卒業・修了できるコースを開設しているほか、外国語による授業科目を積極的に導入している。また、日本語による授業科目も含めてシラバスの英語化を促進している。</p> <p><b>【科目ジュークボックス】</b></p> <p>国際的互換性のある教育と世界トップレベルの研究を行う戦略として掲げる Campus in Campus (CiC) 構想では、協定校との間で科目ジュークボックスによる授業科目の共有を実施している。科目ジュークボックスとは、大学の壁を超えて授業を共有する独自のシステムである。本学及び CiC パートナー大学が授業科目を提供し合い、学生は受講したい科目を科目ジュークボックスで検索し、留学前に自分の専門や関心に応じた履修計画を立てることができる。2023 年 5 月現在で約 3,800 科目が登録されている。</p> <p><b>【留学生との交流】</b></p> <p>本学では、「国際性の日常化」を体現するキャンパス環境構築のため、日本人学生と留学生とが日常的に国際交流を行うことができる場として、「スチューデント・コモンズ」を開設している。スチューデント・コモンズでは、国際交流に係る様々なイベントを開催しているほか、海外留学を目指す学生のための説明会や個別面談等、日常的に各種留学サポートを実施している。例えば、筑波大学の学生と海外協定校の学生が、与えられたトピックについて、少人数のグループ内でディスカッションしながら文化交流や意見交換をする「Tsuku-Chat」等が開催されている。</p> <p><b>【Japan Virtual Campus (JV-Campus)】</b></p> <p>2020 年以降のコロナ禍において、教育のオンライン化が一挙に進展してきた中で、情報化社会における学生ニーズの多様化、留学生及び研究者の流れも大きな変化がみられている。今後も教育の価値を高めるため、ニューノーマルにおける我が国の高等教育の国際教育・交流の環境として、国際競争力のある教育をオンラインで国内外に開放できるプラットフォームを構築し、自大学で開講できない分野や内容の教育の提供・海外に対して日本の強みと魅力ある教育を提供し、国際競争力のあるハイブリッド教育に繋がる環境整備を行うものであり、本学は幹事校として携わり、2022 年 3 月よりパイロット事業を開始している。将来的には、日本の高等教育の国際的玄関口として、日本の大学全体の国際的価値の向上、海外学生のインバウンド、国内学生のアウトバウンド、地方社会をリードする人材育成、リカレント教育、大学の経営強化への波及効果が期待されている。</p> <p><b>【トランスボーダーを実現する特徴的な学位プログラム】</b></p> <p>本学では、高い研究力を背景とした国際的互換性のある教育システム構築の一環として、外国語のみで卒業・修了できるコースを積極的に開設している。また、本学の強み・特色を活かしたプログラムとして、学士課程では、日本関連企業での就職を希望する留学生のため、日本の文化・社会を理解し、日本マインドを持った留学生を育成することを目的とした Japan-Expert プログラム、分野横断型の学位プログラム（地球規模課題学位プログラム）、工学システムと応用理工学が連携した理工系分野の英語プログラム（総合理工学位プログラム）等を、大学院ではジョイント・ディグリープログラム等を実施している。このように、社会の要請にスピード感を持って対応すべく、国境・組織・分野等のあらゆる壁を超えて研究者が集結し、様々な連携形態を持つ特徴的なプログラムを通じ、地球規模課題の解決の原動力となる人材育成を進めている。主なプログラムを次に示す。</p> |      |

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## ①地球規模課題学位プログラム (2017-)

全学の組織・分野を横断し他大学（国際基督教大学）と連携する文理融合型のオールラウンド型学士学位プログラムとして開設。同プログラムは、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢をもち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を育成する。

## ②総合理工学位プログラム (2019-)

工学システムと応用理工学が連携した理工系分野の英語プログラム。超スマート社会（Society 5.0）における次世代のモノづくりを牽引するための志を持ち、数学と物理の確固たる基礎学力を備えて、モノを扱うミクロからマクロスケールにわたる分野横断的の工学分野の課題を第一原理的な視点から理解・分析し、創造的解決に結びつけることのできるグローバル人材を育成する。

## ③Campus in Campus (CiC)協定校とのジョイント・ディグリープログラム

## ・国際連携食料健康科学専攻 (2017-)

ボルドー大学及び国立台湾大学との連携により開設。人類が地球規模で直面する健康の維持・増進や食料の安全供給等の課題に対して、「医食同源」の理念に基づき、食料が健康に及ぼす影響を科学的に理解し、グローバル社会のニーズと研究開発を橋渡しすることのできる専門力と実践力を備えた国際的な高度専門職業人を養成する。3大学の学生が共にセメスター毎に日本、台湾、フランスの順に移動して各大学の科目および研究指導を受けることで、本学の強みに加えて各大学の強みを組み込んだ、特徴的なカリキュラムを実施している。

## ・国際連携持続環境科学専攻 (2017-)

マレーシア工科大学に設置されたマレーシア日本国際工科院（MJIIT）との連携により開設。熱帯アジア地域を主な対象に、水資源・水環境、水災害、生態系等の地球規模課題に対し、理学、農学、工学、社会科学等の専門的かつ俯瞰的な洞察力を持って問題解決ならびに持続可能な社会の実現に寄与できる人材を育成する。両大学の学生は、日本・マレーシアを移動し、各大学の授業と研究を受ける。環境分野では国内最初のジョイント・ディグリープログラムである。

## ④ライフイノベーション学位プログラム (2015-)

筑波研究学園都市のライフサイエンス系の研究所・企業等で構成するつくばライフサイエンス推進協議会及び海外の大学と協働して運営する新たな形式の学位プログラム。「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」「生物情報」「生体分子材料」の6領域を設定。分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度で専門的研究能力を身に付け、バイオリソースを用いてライフサイエンス研究の新たな展開を切り開き、革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野でグローバルに活躍する高度専門職業人を養成する。

## ⑤エンパワーメント情報学プログラム (2014-)

情報学と心理・芸術等を融合した博士課程教育リーディングプログラムとして H26 に開設し、補助期間終了後の R2 から自走（事後評価「S」）。「人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学」として、新たに「エンパワーメント情報学」を創設し、これからの人類社会にとって、安全性、利便性、心の豊かさの向上といった様々な観点から、人の生活の質を向上させる工学システムを創出できる人材を育成する。

## ⑥ヒューマニクス学位プログラム (2019-)

卓越大学院プログラムに採択され、H31 年度に開設。本プログラムは、医学と理学・工学・情報学分野の教員が結集する最も学際的かつ最先端の学位プログラムとして、他の学位プログラムを先導する役割を担うと同時に、国内外の大学改革の先導的役割を果たすことが期待されている。

## 2. 国際化に対応する教員の資質向上

教育・研究の国際的通用性および国際的評価の向上の観点から、国際テニュアトラック制による雇用を促進し、国際公募による外国人教員の積極的な採用や、海外での教育研究歴を有する優秀な教員の確保に努めてきた。国際テニュアトラック制度は、若手教員のテニュアトラック期間中に2年以上、海外の一流研究者との共同研究に専念する機会を与える制度として導入され、本制度によ

（大学名：筑波大学）（タイプ：A）

り採用された教員による TOP1%論文比率は、RU11 平均と比較して約 7 倍と各段に高いものとなっている。また、国際的な教育環境の構築が進むことに伴い、グローバル高等教育・国際交流に関する体系的なレクチャーシリーズや、専門教育の授業を英語で行うことを支援するため、「英語で効果的に授業を行うために」と題した FD を企画、実施するなど、教育能力の向上に資する取組を推進している。

### 3. 国際化に対応する体制強化

#### 【事務職員の高度化】

本学では、「国際性の日常化」というコンセプトのもと、「世界との共生」を担う人材を育成してきた。この間、国内外の大学を取り巻く環境が急速に変化し、国際的な連携及び留学生の対応等、真の国際社会へ向けて果たすべき課題の解決が急務となっている。「世界的研究・教育の拠点」機能の強化を目指して効果的かつ戦略的な展開を進めるため、対応する職員に専門的な知識やノウハウが求められるのみならず、組織として国際競争力の強化を図るため、一体的かつ一貫した対応がより一層重要となっている。国際局グローバル・コモンズにおいて、留学生と職員の英会話パートナー研修、e ラーニング英語研修等の職員の語学力向上に向けた研修や、グローバル高等教育・国際交流に関するセミナー等を実施し、グローバル化を進める大学に最適化された事務職員の育成を進めている。こうした取組により、さらに業務の高度化を推進し、必要に応じて他組織との有機的な連携・協力の下で総合的に国際化に対応し得る事務職員の育成を進める。

#### 【スチューデントサポートセンターの設置】

従前から学生生活支援室を設置し、効果的な修学及び学生生活の支援に関して総括し企画立案を行うと共に、関係組織と密接に連携して学生生活に係るサービスを提供してきたが、留学生の増加に伴い、更なる支援体制の強化や、学生同士の多様な活動を通じ、より協働しやすい環境整備体制を整備するため、2021 年 4 月の事務組織改編により「スチューデントサポートセンター」を設置した。当該センターは学生部、学生生活支援室及び学生相談室との一体的な支援により、日本人学生及び外国人留学生等を区別することなく、全学的観点から国際交流に関するワンストップサービスを提供し、学生の自立性の向上を図ることを目的としている。これにより、より効果的かつ効率的に国際的な見地から学生を支援する協働体制が整っている。

### 4. 単位の実質化に向けた取組

本学では、人材育成の基本理念や、学生が卒業・修了までに身に付けるべき知識・能力等を「筑波スタンダード」として明確化し、すべての学位について、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定・公表し、これに基づく教育の実施状況の点検・改善を継続的に行い、学位プログラムとしての教育機能の向上を図っている。また、学位取得に至るまでのプロセスを可視化し、学位の質を保証していくためには、質保証の最小単位となる個々の授業科目のシラバスが重要であることから、「シラバス作成のためのガイドライン（シラバスガイドライン）」を作成し、各教員組織・授業担当教員に周知している。

国際的互換性のある成績評価を徹底するため、学士課程の全組織で GPA 制度を導入しているほか、個々の授業科目において十分な学習量を確保するため、1 年間に履修できる単位の上限を学士課程では「45 単位」を基本としている。大学院は、専門職学位課程の 2 専攻では GPA を設定し、それ以外の学位プログラムでは達成度評価の方法を定めて研究指導を含む学修の進展状況を定期的に確認し、きめ細かな学修指導・支援を行っている。こうした単位の実質化と学位の質保証に関する取組は、2020 年 4 月の学位プログラム移行を機に設置した「教学マネジメント室」によるモニタリング（毎年の自己点検・評価）とプログラムレビュー（数年毎の総合的な評価と対話）において、ルーブリックに基づく検証を行っている。このモニタリング及びプログラムレビューでは、主体的な質保証及び質向上に向けた取組状況を可視化するとともに、各プログラムの自立的な PDCA サイクルの確立を支援し、教育の継続的な改善に資することを目的としている。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学等名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 筑波大学                                                                                            |
| ⑤ 事業の評価【1 事業ごとに1 ページ以内】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                 |
| <p style="text-align: center;">多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」<br/>養成プラン取組概要及び事後評価結果</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                 |
| 整理番号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2                                                                                               |
| 申請担当大学名<br>(連携大学名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 筑波大学<br>千葉大学、群馬大学、日本医科大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立県民健康科学大学、東京慈恵会医科大学、上智大学、星薬科大学、昭和大学、お茶の水女子大学 |
| 事業名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 関東がん専門医療人養成拠点                                                                                   |
| 事業推進責任者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 筑波大学医学医療系消化器外科教授 小田竜也                                                                           |
| 取組概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                 |
| <p>A) 連携8大学による“関東 AYA 希少がんセンターネットワーク”を教育拠点として整備し、がんゲノム医療、がんライフ・QOL 医療の教育実践の場とする。B) 連携大学内にあるゲノム、オミックス研究施設と連携し、深い学際的教養と幅広い研究的視野を持って、新たな医療価値を創造するがん専門医療人を養成する。A、B) 教育リソースが少ないこれらの課題分野に対して、全国がんプロ8拠点と連携した E クラウド教育体制を新たに構築し、大学院生教育を行う。大学や地域の医療職への FD、市民教育にもこの先進的な IT 環境を積極的に活用する。C) 諸外国の方が進んでいる制度や活動（AYA がんセンター、Team Oncology 等）については、多職種、多大学から成るチームで現地視察を行い、その長所・短所を拠点内の活動に反映させる。他方、東アジア、中東などでは現地での需要を掘り起こし、日本のがん医療のグローバル展開の礎とする。</p>                                                                                                                                                                                               |                                                                                                 |
| 事後評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                 |
| <p>(総合評価) A<br/>計画通りの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                 |
| <p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ e-learning をベースとした教育プログラムにより要請した大学院生の人数が目標数を上回ったことは評価できる。コースにより低調な大学等があり、薬剤師を含む多職種に対する、人材育成が低調な施設が見受けられる。癌生殖医療に特化した取り組みは特徴的なアプローチである。継続を望みたい。コロナ渦にあって、質保証された e-learning のプログラムは、受講者数の増加もみられることから、成果をあげたものと考えられる。</li> <li>○ 医学物理士の育成に成果を挙げた。</li> </ul> <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 13 連携大学の連携・協働による教育やシステムづくりについては、当初の目的であった“関東 AYA・希少がんネットワーク”が十分に確立できていないなどの課題を残している。</li> <li>◆ 大学間差が大きく、医師以外の専門職に対する取り組みが全般的に少ない。薬剤師の人材育成にも注力して欲しい。</li> <li>◆ 評価体制について連携大学間でどのように統一的に実施したかについては十分に記載されていない。</li> </ul> |                                                                                                 |

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

**基礎研究医養成活性化プログラム  
取組概要及び事後評価結果**

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 整 理 番 号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 1                              |
| 申請担当大学名<br>(連携大学名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 筑波大学<br>(自治医科大学、獨協医科大学) 計 3 大学 |
| 事業名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 病理専門医資格を担保した基礎研究医育成            |
| 事業推進責任者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 人間総合科学学術院副学術院長 森川一也            |
| <b>取 組 概 要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                |
| <p>本事業は、病理専門医資格を担保しながら基礎研究医を養成する取組である。病理形態学の視点を欠く基礎医学研究は発展性に乏しく、その学習機会の欠失が現在の日本の基礎研究の底を浅くしている。本プログラムは入学者全員に基盤となる病理学教育を行い、日本病理学会の“病理専門医”の受験資格や、本プログラムが独自に認定する“臓器別病理専門医”資格を取得させ、生活基盤の安定も担保する。初年度は研究モラトリウム期間とし、多様な基礎医学研究テーマを閲覧できる“ショーケース”を利用し自身の研究テーマを決定する。2年目以降には、特別研究派遣制度を利用して参加3大学のどの基礎医学教室でも研究が出来る“ジュークボックス型”の柔軟性を認め、多様な基礎研究テーマのいずれを専門としても、病理形態学の知識を備えた基礎研究医になる。次世代の日本の基礎医学研究の中心的リーダーを養成する挑戦的な教育実験である。</p>                                                                                                                                                                                                           |                                |
| <b>事後評価結果</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                |
| <p>(総合評価)<br/>A 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                |
| <p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】<br/>○3大学の連携により、教育プログラムが効果的に実施されるように工夫されており、様々な専門分野を有する多くの教員の講義を学生が受けられる機会ができたことは評価できる。<br/>また、web base の自習課題、遠隔診断システムの基盤形成も有効な実践である。<br/>○死因究明医の基盤として病理専門医あるいは臨床の専門医資格を有する医師を対象としたコースの教育内容を提案している点は評価できる。<br/>○本プログラムが各大学の大学院プログラム又はコースに組み込まれており、継続した基礎研究医の養成体制が整っている。<br/>○3大学間の顕微鏡会議システムの導入による連携の整備、国立がんセンター研究所との連携による研究力強化に尽力した。<br/>○サマーセミナー、ウインタースクールなどで多数の参加者を得ている。</p> <p>【改善を要する点等】<br/>◆最終目標のひとつである「死因究明医」の育成に結びついておらず、制度設計を含め、長期的展望を描きながらの人材養成を期待する。<br/>◆臓器別病理診断医という新しい概念を提示している点は特色があるが、その位置づけや、具体的な認定制度などが不明確な点については、学会レベルでの議論を含め、継続的な検討により目標や課題を明確にする必要がある。</p> |                                |

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 大学等名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 筑波大学 |
| ⑥ 他の公的資金との重複状況【2 ページ以内】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      |
| <p>【スーパーグローバル大学創成支援事業（H26 採択、H29 中間評価「S」、R2 中間評価「A」）】</p> <p>教育研究のトランスボーダー化を加速する地球規模の教育研究整備（Campus in Campus）を核に、高い研究力を背景として、国際的互換性と国際就業力を担保する革新的な教育プログラムの実施、国際的に存在感のある大学とするためのマネジメント体制の改革、大学構成員の意識変革を含む大学の包括的国際化を推し進め、地球規模課題の解決に貢献する大学として、建学の理念にある「開かれた大学」から「我が国の高等教育と社会を世界に開き、率先して世界の未来を拓く大学」への跳躍を成し遂げることを目的としている。</p> <p>本事業は、米国との学生交流を主体とした教育プログラムであり、内容や趣旨に鑑みても本事業と重複しない。</p> <p>【卓越大学院プログラム（H30 採択、R3 年度中間評価「S」）】<br/>（ヒューマニクス学位プログラム）</p> <p>生命の恒常性の原理、個としての「ヒト」の生理と病理を明らかにし、社会の中で「人」として健康で快適な生活が実現できる新たな科学・技術を生み出す学問領域を「ヒューマニクス」と定義し、これを修得した「ヒューマニクス」人材を育成する分野横断型博士課程の学位プログラム（五年一貫制）である。</p> <p>今回の申請プログラムは学生交流を主体とした教育プログラムであり、卓越大学院プログラムの内容や趣旨に鑑みても、本事業と重複しない。</p> <p>【大学の世界展開力強化事業（R3 採択）】<br/>（地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム）</p> <p>日中韓に ASEAN3 ヶ国を加えた計 6 大学間のコンソーシアムを形成し、地球規模課題の解決に欠かすことのできない学際的・国際的協働のための能力を備えた人材の養成を目標とするプログラムである。</p> <p>本事業は、米国との学生交流を主体とした教育プログラムであり対象地域が異なることから、本事業と重複しない。</p> <p>【2023 年度海外留学支援制度】</p> <p>2023 年度において協定派遣（短期研修・研究型）5 件、協定受入（短期研修・研究型）3 件、協定受入・派遣（双方向協定型）6 件が採択された。</p> <p>本プログラムは、米国との学生交流を主体とした教育プログラムであり、本支援制度に採択されたいずれのプログラムとも重複しない。</p> <p>(1) 協定派遣（短期研修・研究型）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グルノーブル・アルプ大学とのダブルディグリー及び短期交換留学プログラム</li> <li>・中央アジア・コーカサス・バルト・東欧諸国を対象としたマルチリンガル人材育成派遣プログラム</li> <li>・デュアルディグリープログラム（DDP）との連携による持続的成長を目指す国際協調時代にふさわしいリーダーとして活躍できる工学系トランスナショナル人材の育成</li> <li>・医療科学分野の大学生交流プログラム（東南アジア派遣）</li> <li>・地球規模課題をローカルな視点から理解できる新興国専門家（グローバル・リーダー）を育成する全学型プログラム「Tsukuba Global+」（筑波大学グローバル+（プラス）リーダーシップ教育プログラム）</li> </ul> <p>(2) 協定受入（短期研修・研究型）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KIBI-Tsukuba Research Training Program</li> <li>・地中海・北アフリカの「環境」問題に取り組むマルチディシプリナル・リサーチ・プログラム</li> <li>・日本研究拠点形成短期留学プログラム</li> </ul> |      |

(大学名：筑波大学) (タイプ：A)

## (3) 協定受入・派遣（双方向協定型）

- ・ グローバルフードセキュリティーダブルディグリープログラム
- ・ 持続環境科学のための国際共同教育研究プログラム
- ・ 筑波大学日独韓共同修士プログラム（TEACH）
- ・ 国際連携食料健康科学専攻を通じたフランス・台湾・日本のトライアングル留学
- ・ 持続的な社会の安全・安心に貢献するトランスパシフィック協働人材育成プログラム
- ・ オンライン型講義と海外フィールドワーク型演習への参加を通しグローバルな研究力の養成と知のネットワーク形成を目指す交換留学プログラム

## 補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和5年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

| ＜2023年度＞ | 経 費 区 分                      | 補助金申請額<br>(①) | 大学負担額<br>(②) | 事業規模<br>(総事業費)<br>(①+②) | 備考 |
|----------|------------------------------|---------------|--------------|-------------------------|----|
|          | [物品費]                        | 4,700         |              | 4,700                   |    |
|          | ①設備品費                        | 750           |              | 750                     |    |
|          | ・事務用PC（250千円×3台）             | 750           |              | 750                     |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ②消耗品費                        | 3,950         |              | 3,950                   |    |
|          | ・消耗品（一式）                     | 3,950         |              | 3,950                   |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | [人件費・謝金]                     | 6,000         |              | 6,000                   |    |
|          | ①人件費                         | 5,700         |              | 5,700                   |    |
|          | ・プログラムコーディネーター（375千円×6ヵ月×2名） | 4,500         |              | 4,500                   |    |
|          | ・事務補佐員（200千円×6ヵ月×1名）         | 1,200         |              | 1,200                   |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ②謝金                          | 300           |              | 300                     |    |
|          | ・講演謝金（50千円×のべ5回）             | 300           |              | 300                     |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | [旅費]                         | 10,000        |              | 10,000                  |    |
|          | ・教員外国出張旅費（500千円×のべ10名）       | 5,000         |              | 5,000                   |    |
|          | ・招聘旅費（500千円×のべ10名）           | 5,000         |              | 5,000                   |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | [その他]                        | 13,300        |              | 13,300                  |    |
|          | ①外注費                         | 3,000         |              | 3,000                   |    |
|          | ・ホームページ作成費                   | 2,500         |              | 2,500                   |    |
|          | ・英文校正                        | 500           |              | 500                     |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ②印刷製本費                       | 800           |              | 800                     |    |
|          | ・プロジェクト広報資料                  | 600           |              | 600                     |    |
|          | ・共通科目チラシ                     | 200           |              | 200                     |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ③会議費                         | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・バーチャル学会プラットフォーム利用料          | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ④通信運搬費                       |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ⑤光熱水料                        |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ⑥その他（諸経費）                    | 8,500         |              | 8,500                   |    |
|          | ・学生旅費支援（10名）                 | 4,000         |              | 4,000                   |    |
|          | ・授業用動画作成                     | 3,500         |              | 3,500                   |    |
|          | ・広報物デザイナー式                   | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
|          | ・                            |               |              |                         |    |
| 2023年度   | 合計                           | 34,000        |              | 34,000                  |    |

(前ページの続き)

(単位：千円)

| ＜2024年度＞ | 経 費 区 分                          | 補助金申請額<br>(①) | 大学負担額<br>(②) | 事業規模<br>(総事業費)<br>(①+②) | 備考 |
|----------|----------------------------------|---------------|--------------|-------------------------|----|
|          | [物品費]                            | 1,250         |              | 1,250                   |    |
|          | ①設備備品費                           |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ②消耗品費                            | 1,250         |              | 1,250                   |    |
|          | ・ 消耗品（一式）                        | 1,250         |              | 1,250                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | [人件費・謝金]                         | 12,600        |              | 12,600                  |    |
|          | ①人件費                             | 11,400        |              | 11,400                  |    |
|          | ・ プログラムコーディネーター（2名）              | 9,000         |              | 9,000                   |    |
|          | ・ 事務補佐員（1名）                      | 2,400         |              | 2,400                   |    |
|          | ②謝金                              | 1,200         |              | 1,200                   |    |
|          | ・ 留学生チューター（1千円×40時間×5名）          | 200           |              | 200                     |    |
|          | ・ 講演謝金（50千円×のべ5回）                | 250           |              | 250                     |    |
|          | ・ TA経費（@1.5千円×50時間×10名）          | 750           |              | 750                     |    |
|          | [旅費]                             | 7,000         |              | 7,000                   |    |
|          | ・ 教員外国出張旅費（500千円×のべ7名）           | 3,500         |              | 3,500                   |    |
|          | ・ 招聘旅費（500千円×のべ7名）               | 3,500         |              | 3,500                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | [その他]                            | 13,150        | 800          | 13,950                  |    |
|          | ①外注費                             | 300           |              | 300                     |    |
|          | ・ ホームページ管理費                      | 300           |              | 300                     |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ②印刷製本費                           | 750           |              | 750                     |    |
|          | ・ プロジェクト広報資料                     | 600           |              | 600                     |    |
|          | ・ 共通科目チラシ                        | 150           |              | 150                     |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ③会議費                             | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・ バーチャル学会プラットフォーム利用料             | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ④通信運搬費                           |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ⑤光熱水料                            |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ⑥その他（諸経費）                        | 11,100        | 800          | 11,900                  |    |
|          | ・ 学生旅費（30名）※学内競争的資金、JASSO（申請予定）含 | 9,600         | 800          | 10,400                  |    |
|          | ・ 授業用動画修正                        | 1,500         |              | 1,500                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
| 2024年度   | 合計                               | 34,000        | 800          | 34,800                  |    |

(大学名：筑波大学)

)

(タイプ：A)

)

(前ページの続き)

(単位：千円)

| ＜2025年度＞ | 経 費 区 分                              | 補助金申請額<br>(①) | 大学負担額<br>(②) | 事業規模<br>(総事業費)<br>(①+②) | 備考 |
|----------|--------------------------------------|---------------|--------------|-------------------------|----|
|          | [物品費]                                | 1,350         |              | 1,350                   |    |
|          | ①設備備品費                               |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ②消耗品費                                | 1,350         |              | 1,350                   |    |
|          | ・ 消耗品 (一式)                           | 1,350         |              | 1,350                   |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | [人件費・謝金]                             | 12,500        |              | 12,500                  |    |
|          | ①人件費                                 | 11,400        |              | 11,400                  |    |
|          | ・ プログラムコーディネーター (2名)                 | 9,000         |              | 9,000                   |    |
|          | ・ 事務補佐員 (1名)                         | 2,400         |              | 2,400                   |    |
|          | ②謝金                                  | 1,100         |              | 1,100                   |    |
|          | ・ 留学生チューター (1千円×40時間×5名)             | 200           |              | 200                     |    |
|          | ・ 講演謝金 (50千円×3回)                     | 150           |              | 150                     |    |
|          | ・ TA経費 (@1.5千円×50時間×10名)             | 750           |              | 750                     |    |
|          | [旅費]                                 | 7,000         |              | 7,000                   |    |
|          | ・ 教員外国出張旅費 (500千円×7名)                | 3,500         |              | 3,500                   |    |
|          | ・ 招聘旅費 (500千円×7名)                    | 3,500         |              | 3,500                   |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | [その他]                                | 13,150        | 1,600        | 14,750                  |    |
|          | ①外注費                                 | 300           |              | 300                     |    |
|          | ・ ホームページ管理費                          | 300           |              | 300                     |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ②印刷製本費                               | 750           |              | 750                     |    |
|          | ・ プロジェクト広報資料                         | 600           |              | 600                     |    |
|          | ・ 共通科目チラシ                            | 150           |              | 150                     |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ③会議費                                 | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・ バーチャル学会プラットフォーム利用料                 | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ④通信運搬費                               |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ⑤光熱水料                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
|          | ⑥その他 (諸経費)                           | 11,100        | 1,600        | 12,700                  |    |
|          | ・ 学生旅費 (40名) ※学内競争的資金、JASSO (申請予定) 含 | 9,600         | 1,600        | 11,200                  |    |
|          | ・ 授業用動画修正                            | 1,500         |              | 1,500                   |    |
|          | ・                                    |               |              |                         |    |
| 2025年度   | 合計                                   | 34,000        | 1,600        | 35,600                  |    |

(大学名：筑波大学)

)

(タイプ：A)

)

(前ページの続き)

(単位：千円)

| ＜2026年度＞ | 経 費 区 分                          | 補助金申請額<br>(①) | 大学負担額<br>(②) | 事業規模<br>(総事業費)<br>(①+②) | 備考 |
|----------|----------------------------------|---------------|--------------|-------------------------|----|
|          | [物品費]                            | 267           |              | 267                     |    |
|          | ①設備備品費                           |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ②消耗品費                            | 267           |              | 267                     |    |
|          | ・ 消耗品（一式）                        | 267           |              | 267                     |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | [人件費・謝金]                         | 12,350        |              | 12,350                  |    |
|          | ①人件費                             | 11,400        |              | 11,400                  |    |
|          | ・ プログラムコーディネーター（2名）              | 9,000         |              | 9,000                   |    |
|          | ・ 事務補佐員（1名）                      | 2,400         |              | 2,400                   |    |
|          | ②謝金                              | 950           |              | 950                     |    |
|          | ・ 留学生チューター（1千円×40時間×5名）          | 200           |              | 200                     |    |
|          | ・ TA経費（@1.5千円×50時間×10名）          | 750           |              | 750                     |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | [旅費]                             | 2,000         | 1,000        | 3,000                   |    |
|          | ・ 教員外国出張旅費（500千円×3名）             | 500           | 1,000        | 1,500                   |    |
|          | ・ 招聘旅費（500千円×3名）                 | 1,500         |              | 1,500                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | [その他]                            | 7,950         | 2,220        | 10,170                  |    |
|          | ①外注費                             |               | 300          | 300                     |    |
|          | ・ ホームページ管理費                      |               | 300          | 300                     |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ②印刷製本費                           | 550           |              | 550                     |    |
|          | ・ プロジェクト広報資料                     | 400           |              | 400                     |    |
|          | ・ 共通科目チラシ                        | 150           |              | 150                     |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ③会議費                             | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・ バーチャル学会プラットフォーム利用料             | 1,000         |              | 1,000                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ④通信運搬費                           |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ⑤光熱水料                            |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ⑥その他（諸経費）                        | 6,400         | 1,920        | 8,320                   |    |
|          | ・ 学生旅費（40名）※学内競争的資金、JASSO（申請予定）含 | 6,400         | 1,920        | 8,320                   |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
|          | ・                                |               |              |                         |    |
| 2026年度   | 合計                               | 22,567        | 3,220        | 25,787                  |    |

(大学名：筑波大学)

)

(タイプ：A)

)

(前ページの続き)

(単位：千円)

| ＜2027年度＞ | 経 費 区 分                         | 補助金申請額<br>(①) | 大学負担額<br>(②) | 事業規模<br>(総事業費)<br>(①+②) | 備考 |
|----------|---------------------------------|---------------|--------------|-------------------------|----|
|          | [物品費]                           |               |              |                         |    |
|          | ①設備備品費                          |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ②消耗品費                           |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | [人件費・謝金]                        | 10,500        | 1,850        | 12,350                  |    |
|          | ①人件費                            | 10,500        | 900          | 11,400                  |    |
|          | ・プログラムコーディネーター（2名）              | 9,000         |              | 9,000                   |    |
|          | ・事務補佐員（1名）                      | 1,500         | 900          | 2,400                   |    |
|          | ②謝金                             |               | 950          | 950                     |    |
|          | ・留学生チューター（1千円×40時間×5名）          |               | 200          | 200                     |    |
|          | ・TA経費（@1.5千円×50時間×10名）          |               | 750          | 750                     |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | [旅費]                            |               | 1,000        | 1,000                   |    |
|          | ・教員外国出張旅費（500千円×2名）             |               | 1,000        | 1,000                   |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | [その他]                           | 800           | 4,490        | 5,290                   |    |
|          | ①外注費                            |               | 300          | 300                     |    |
|          | ・ホームページ管理費                      |               | 300          | 300                     |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ②印刷製本費                          |               | 150          | 150                     |    |
|          | ・共通科目チラシ                        |               | 150          | 150                     |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ③会議費                            |               | 1,000        | 1,000                   |    |
|          | ・バーチャル学会プラットフォーム利用料             |               | 1,000        | 1,000                   |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ④通信運搬費                          |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ⑤光熱水料                           |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ⑥その他（諸経費）                       | 800           | 3,040        | 3,840                   |    |
|          | ・学生旅費（40名）※学内競争的資金、JASSO（申請予定）含 | 800           | 3,040        | 3,840                   |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
|          | ・                               |               |              |                         |    |
| 2027年度   | 合計                              | 11,300        | 7,340        | 18,640                  |    |

(大学名：筑波大学)

)

(タイプ：A)

)